

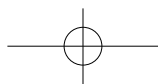
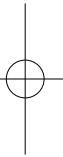
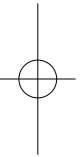
横隈上ノ原上遺跡 5

—福岡県小郡市横隈所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第346集

2022

小郡市教育委員会



序 文

本書は、宅地造成に伴う道路工事に先立ち、小郡市教育委員会が実施した横隈上ノ原上遺跡5の発掘調査の記録です。

調査地は小郡市北西部、脊振山系から東に延びる三国丘陵の東端部に位置します。周辺では、これまで数回にわたる発掘調査が実施され、弥生時代から古代にかけての遺構・遺物が確認されています。今回の調査でも、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡などの遺構を検出し、周辺の遺跡との関連が注目されます。

本調査で得られた情報は、市内における弥生時代の集落様相を明らかにする上で重要な成果となりました。本書が文化財への理解、普及、さらに学術研究の進展の一助となれば幸いです。

最後に、調査にご協力いただいた周辺住民の皆様、また地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

令和4年3月31日

小郡市教育委員会
委員長 秋永晃生

例 言

1. 本書は、小郡市横隈地内における道路開発工事に伴って、小郡市教育委員会が令和2年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 発掘調査は株式会社 海王から委託を受け、小郡市教育委員会が行った。
3. 遺構の写真撮影は一木賢人が行い、空中写真は（有）空中写真企画に委託した。
4. 遺構の実測、遺物の復元・実測・製図には、担当者の他に久住愛子、佐々木智子、宮崎美穂子、山川清日、永富加奈子、牛原真弓、林知恵ら諸氏に多大なる協力を得た。
5. 遺物の写真撮影は、（有）システム・レコに委託した。
6. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土調査法第Ⅱ座標系に則っている。
7. 図中の遺構表記は、SC（住居跡）、SK（土坑）、SD（溝状遺構）を用いた。
8. 遺物・実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
9. 本書の執筆及び編集は、一木が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の経過	1
3. 調査組織	1
第2章 位置と環境	1
第3章 遺構と遺物	4
1. 竪穴式住居跡	4
2. 土坑	22
3. 溝状遺構	23
4. 不明遺構	24
第4章 まとめ	41
出土遺物観察表	42
写真図版	

挿図目次

第1図 横隈上ノ原上遺跡過去の調査地点位置図 (S=1/5,000)	2
第2図 横隈上ノ原上遺跡周辺の主要遺跡分布図 (S=1/25,000)	2
第3図 横隈上ノ原上遺跡5遺構配置図 (S=1/300)	3
第4図 1・2号住居跡実測図 (S=1/80)	9
第5図 3・4号住居跡実測図 (S=1/80)	10
第6図 5～7号住居跡実測図 (S=1/80)	11
第7図 9～12号住居跡実測図 (S=1/80)	12
第8図 13～16・23号住居跡実測図 (S=1/80)	13
第9図 17～20号住居跡実測図 (S=1/80)	14
第10図 21・22・25号住居跡・5号溝状遺構実測図 (S=1/80)	15
第11図 1・2・4・5・7号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)	16
第12図 3・8～10号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)	17
第13図 13・14～16・19号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)	18
第14図 17号住居跡出土土器実測図 (1はS=1/5、他はS=1/4)	19
第15図 17・21号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)	20
第16図 20号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)	21
第17図 2・4号土坑実測図 (S=1/80)	25
第18図 3・5～7号土坑実測図 (S=1/60)	26
第19図 1・2・4号土坑出土土器実測図 (7・8はS=1/5、他はS=1/4)	27
第20図 5・8号土坑出土土器実測図 (S=1/4)	28
第21図 7号土坑出土土器実測図① (S=1/4)	29
第22図 7号土坑出土土器実測図② (S=1/4)	30
第23図 7号土坑出土土器実測図③ (S=1/4)	31
第24図 7号土坑出土土器実測図④ (S=1/4)	32
第25図 6号溝状遺構実測図 (S=1/80)	33
第26図 3・5号溝状遺構・1・2号不明遺構出土土器実測図 (S=1/4)	34
第27図 6号溝状遺構出土土器実測図① (S=1/4)	35
第28図 6号溝状遺構出土土器実測図② (S=1/4)	36

第29図	出土石器実測図①(1～5はS=1/2、6～9はS=1/4)	37
第30図	出土石器実測図②(S=1/2)	38
第31図	出土石器実測図③(S=1/4)	39
第32図	出土縄文土器・土製品実測図(S=1/2)	40
第33図	出土鉄製品実測図(S=1/2)	40
第34図	横隈上ノ原上遺跡5遺構変遷図(S=1/600)	41

表目次

表1	横隈上ノ原上遺跡5 出土土器観察表	42
表2	横隈上ノ原上遺跡5 出土石器観察表	47
表3	横隈上ノ原上遺跡5 出土縄文土器・土製品観察表	47
表4	横隈上ノ原上遺跡5 出土鉄製品観察表	47

図版目次

図版1 ①調査区遠景(北東から)	②調査区遠景(北から)
図版2 ①調査区北部全景(上空から)	②調査区南部全景(上空から)
図版3 ①1号住居跡貼床面(北西から)	⑤2号住居跡完掘(西から)
②1号住居跡完掘(西から)	⑥2号住居跡土層断面(南から)
③1号住居跡土層断面(東から)	⑦3号住居跡貼床面(南西から)
④2号住居跡貼床面(北東から)	⑧3号住居跡完掘(南西から)
図版4 ①4号住居跡貼床面(南西から)	⑤6・7号住居跡貼床面(西から)
②4号住居跡完掘(南西から)	⑥6号住居跡完掘(北から)
③5号住居跡貼床面(西から)	⑦7号住居跡完掘(北西から)
④5号住居跡完掘(西から)	⑧8号住居跡完掘(北東から)
図版5 ①9・10号住居跡貼床面(西から)	⑤17号住居跡貼床面(東から)
②11号住居跡貼床面(西から)	⑥19・20号住居跡貼床面(南から)
③12～15号住居跡貼床面(南から)	⑦21号住居跡貼床面(北西から)
④16号住居跡貼床面(南から)	⑧21号住居跡完掘(西から)
図版6 ①22号住居跡完掘(東から)	⑤5号土坑土層断面(南から)
②2号土坑完掘(南東から)	⑥7号土坑遺物出土状況(北から)
③3号土坑土層断面(南から)	⑦1号溝状遺構完掘(北から)
④4号土坑完掘(南西から)	⑧3号溝状遺構完掘(西から)
図版7 ①4号溝状遺構完掘(西から)	⑤6号溝状遺構東壁土層断面(西から)
②5号溝状遺構完掘(西から)	⑥1号不明遺構完掘(東から)
③6号溝状遺構完掘(北西から)	⑦2号不明遺構完掘(北から)
④6号溝状遺構西壁土層断面(東から)	
図版8～11 出土土器	
図版12 出土石器	
図版13 出土石器・鉄製品	

第1章 調査の経過と組織

1. 調査に至る経過

今回の開発事業に関する当該地の事前審査は、株式会社海王より提出された宅地造成に伴う埋蔵文化財の有無の照会(平成29年9月15日付 小教文第7079号、令和2年2月17日付 小文教9136号・9137号)に始まる。これを受けて、小郡市教育委員会が申請地を対象に試掘調査を実施した結果、弥生～古墳時代の遺跡の存在を確認した。この結果に基づき、令和2年6月18日付で埋蔵文化財発掘の届出が提出され、協議の結果、道路部分666.73㎡について発掘調査を実施することで合意した。現地発掘調査は令和2年度に、出土遺物の整理作業、報告書作成は令和3年度に実施した。

2. 調査の経過

調査範囲は、開発工事に伴う道路部分666.73㎡である。現地調査は令和2年9月1日に着手し、令和3年1月29日に終了した。主な調査の経過は、以下の通りである。

令和2年9月1日：重機を搬入。調査区北側の表土剥ぎを開始。

9月8日：発掘作業員を投入して調査開始。

11月10日：調査区北側の空撮。

12月11日：調査区北側の埋め戻し。

12月18日：調査区南側の表土剥ぎ開始。

12月22日：調査区南側の調査開始。

令和3年1月6日：南半部の図面作業、レベル入れ。

1月12日：南半部の空撮。

1月29日：南半部の埋め戻し終了。

3. 調査組織

令和2・3年度の横隈上ノ原上遺跡5における発掘調査の関係組織は、以下の通りである。

<小郡市教育委員会>

教育長 秋永 晃生

教育部 部長 山下 博文

文化財課 課長 柏原 孝俊

係長 杉本 岳史

嘱託 一木 賢人

第2章 位置と環境

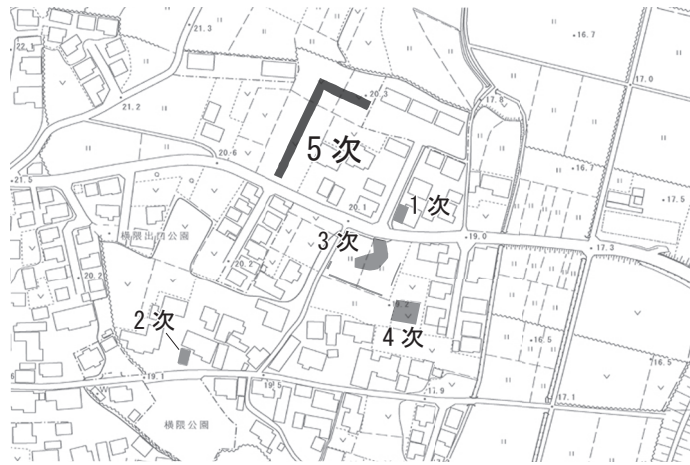
横隈上ノ原上遺跡5は、小郡市横隈字上ノ原上815-1、816-1・2・3に位置し、市の北西部に広がる通称三国丘陵から、宝満川沿いの低地へと至る標高約20m前後の低台地上にある。周辺は遺跡の密集地帯で、約300m南西には弥生時代中期の墓地である横隈上内畑遺跡1地点が存在している。

横隈上ノ原上遺跡は、アパート建築に伴う防火水槽建設に伴い、平成5年(1993)に初めて調査された。検出されたのは弥生時代後期の住居跡2軒、土坑2基、古墳時代後期の土坑1基、溝1条などで、1号住居跡はベッド状遺構を持つ。2次調査は、農業用倉庫の建設に伴い、平成11年(1999)に実施された。溝やピットを検出したが、詳細は不明である。3次調査は、宅地造成に伴って平成27年(2015)に行われ、弥生時代の大型溝1条、土坑2基、周溝状遺構1基、古代の住居跡13軒、土坑5基を確認した。弥生時代の大型溝は幅約2.4mで、東西方向に走る。下層から丹塗土器が出土し、周辺の集落・墓地の展開と関わりを持つ遺構と考えられる。4次調査は、個人住宅の建築に伴って

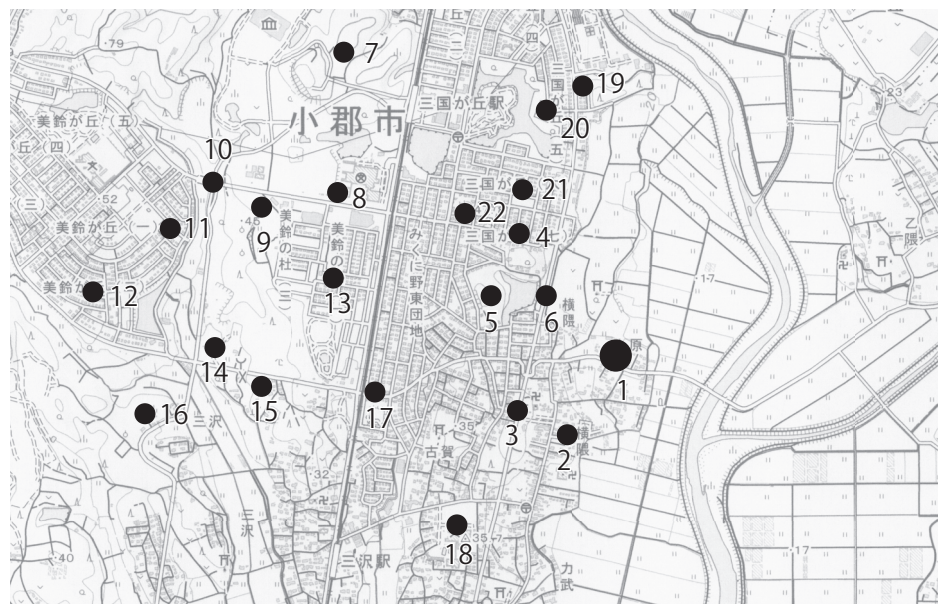
平成30年(2018)に実施され、弥生時代の溝2条、古代の溝2条と土坑1基、中世の溝3条と土坑1基を確認した。それぞれの時期の溝は、過去の調査で検出した遺構や周辺遺跡の時期と合致しており、地形的な特徴と合わせて、集落から宝満川に至る低地に向かって溝が掘削されていたと考えられる。

当遺跡の周辺には、弥生時代と古代を中心とする遺跡が数多く確認されている。弥生時代では、集落として丘陵上に横隈狐塚遺跡7地点があり、前期中頃の住居跡8軒、貯蔵穴58基、土坑31基などが確認された。貯蔵穴は深さ2mを越えるものが28基存在するなど残存状況が良好で、75号土坑(貯蔵穴)からは、14.36kgの炭化米が出土した。墓地としては横隈狐塚遺跡1～7地点、横隈上内畑遺跡1～6地点などがある。横隈狐塚遺跡では、2・7地点を合わせて、弥生時代中期初頭から後期中頃の甕棺墓394基、土壙墓211基などを確認した。なお、7地点197号甕棺墓では、中位胸椎に銅剣の切先が嵌入した状態の殺傷人骨を検出した。横隈上内畑遺跡2～6地点では、土壙墓204基、甕棺墓41基、木棺墓36基などが確認された。時期は前期(木棺墓など)と後期(土壙墓など)を中心とし、土壙墓には足元掘込式、横口式、二段掘りなどがある。

古代の集落としては、横隈仕解田遺跡や横隈狐塚遺跡7地点などがある。前者は横隈上ノ原上遺跡と立地も近く、住居跡13軒、大溝1条、土坑などが検出された。後者では、6世紀末から7世紀初頭を中心とする住居跡9軒、竪穴状遺構2基、土坑3基などが確認されている。

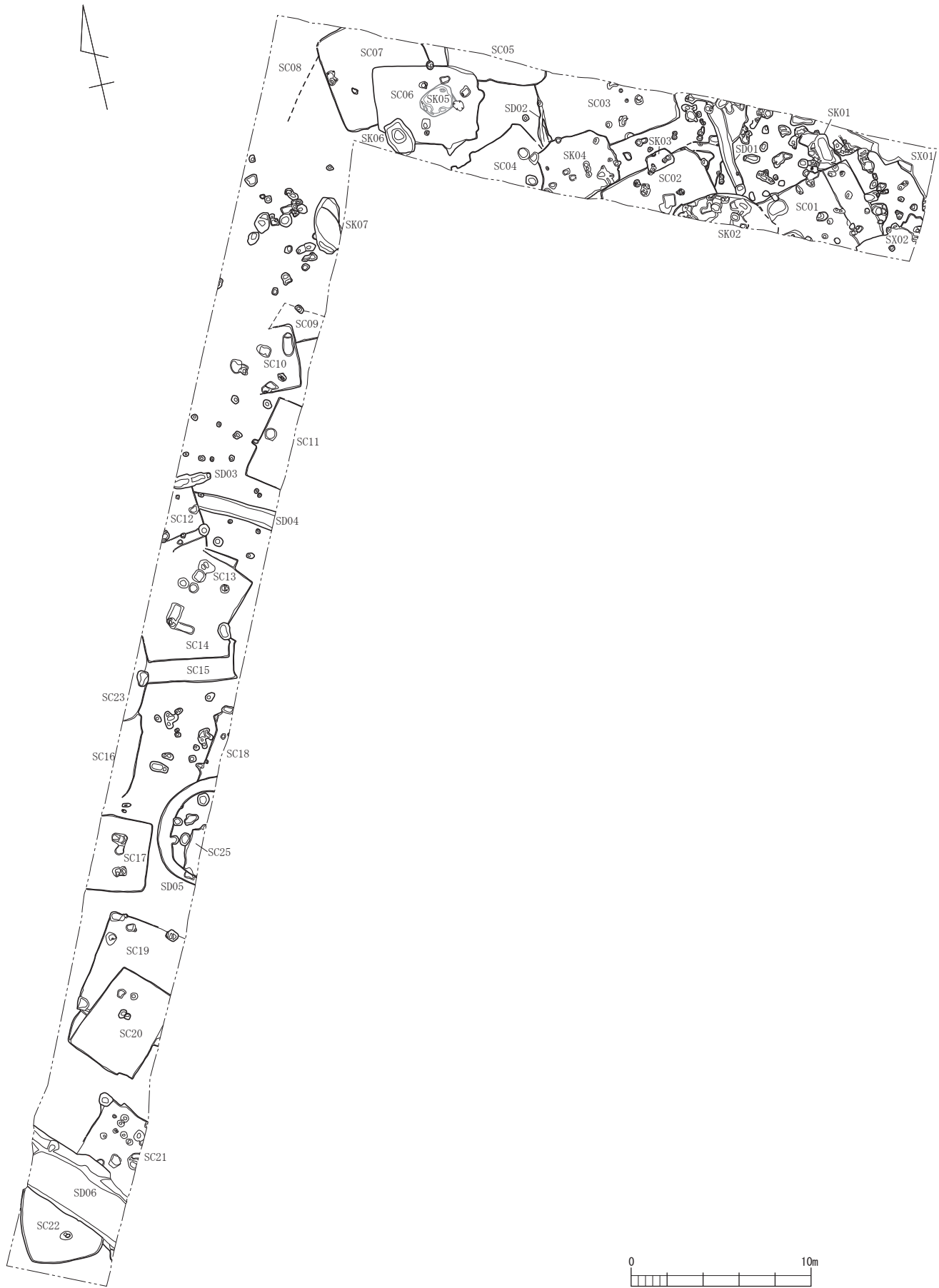


第1図 横隈上ノ原上遺跡過去の調査地点位置図 (S=1/5,000)



1. 横隈上ノ原上遺跡 2. 横隈上内畑遺跡1 3. 横隈上内畑遺跡2～6 4. 横隈狐塚遺跡2
5. 横隈狐塚遺跡7 6. 横隈仕解田遺跡 7. 三沢遺跡 8. 三沢蓬ヶ浦遺跡
9. 三沢公家隈遺跡 10. 三沢ハサコの宮遺跡 11. 一ノ口遺跡 12. 北松尾口遺跡
13. 三沢北中尾遺跡 14. 北牟田遺跡 15. 牟田々遺跡 16. 三沢栗原遺跡
17. 横隈山遺跡6・7 18. 三国小学校遺跡 19. 三国の鼻遺跡 20. 横隈北田遺跡
21. 横隈鍋倉遺跡 22. 横隈山古墳

第2図 横隈上ノ原上遺跡周辺の主要遺跡分布図 (S=1/25,000)



第3図 横隈上ノ原上遺跡5遺構配置図 (S=1/300)

第3章 遺構と遺物

横隈上ノ原上遺跡5で検出した主な遺構は、以下の通りである。周辺の遺跡の状況から、調査前は古代の集落の存在を想定していたが、今回の調査で確認した遺構の中心は弥生時代である。なお、遺構検出面の直上層からは古代の須恵器・土師器が多く出土しており、古代の遺構が存在していた可能性も考えられる。

- ・ 弥生時代中期～後期前半 … 住居跡9軒、土坑5基、溝状遺構3条
- ・ 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭 … 住居跡7軒
- ・ 時期不明 … 住居跡8軒、土坑2基、溝状遺構3条、不明遺構2基

1. 竪穴式住居跡

1号住居跡（第4図、図版3）

調査区北東隅部に位置し、標高は20.2 mを測る。南側は調査区外に延び、西側は一部2号土坑に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸5.78 m、短軸4.73 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ15～25cmである。東側にはベッド状遺構を伴う。床面にはピットを多く確認したものの、支柱穴は明確でない。

出土遺物（第11図、図版8）

第11図1は甕で、口径17.7 cm、器高23.0 cmを測る。胴部外面の剥離面にもススが付着している。3は小型の鉢で器高6.5 cm、4は小型の坏で、口径6.7 cm、器高6.3 cmを測る。

2号住居跡（第4図、図版3）

調査区北東部に位置し、標高は20.3 mを測る。西側は調査区外に延び、南側は2号土坑に、北側の一部を3号土坑に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸5.92 m、短軸3.14 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ26cmである。床面にはピットを多く確認したものの、支柱穴は明確でない。

出土遺物（第11図、図版8）

第11図7は復元口径37.8 cmを測る大型の甕で、外面口縁部下位に突帯を1条有する。10が樽型に近い甕で、口径16.7 cm、器高16.3 cmを測る。

3号住居跡（第5図、図版3）

調査区北東部に位置し、標高は20.3 mを測る。北側は調査区外に延び、南側は4号土坑に、西側の一部を5号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸7.40 m、短軸4.77 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ28cmである。調査当初は平面プラン長方形の住居跡と考えていたが、完掘後の東西の掘方の深さの違いや柱穴とみられるピットの位置から、2軒の住居跡が切り合っている可能性も考えられる。

出土遺物（第12・32図、図版8）

第12図1は甕で、口径22.0 cm、器高28.8 cmを測る。6は無頸壺で、復元口径9.8 cmである。第32図1・2は押型文土器鉢の小片である。

4号住居跡（第5図、図版4）

調査区北東部に位置し、標高は20.0 mを測る。南側は調査区外に延び、東側は4号土坑に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸4.72 m、短軸3.80 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ26cmである。床面東部で大型のピットを確認したが、支柱穴になるかは不明である。

出土遺物（第 11・30・33 図、図版 12・13）

第 11 図 11 は甕で、口径 22.4 cm を測る。第 30 図 5 は小型の砥石で、3 面の使用が見られる。第 33 図 3 は鉄鏃で、長さ 4.6 cm を測る。

5 号住居跡（第 6 図、図版 4）

調査区北部に位置し、標高は 20.2 m を測る。北側大部分は調査区外に延び、南西側は一部 6 号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 5.82 m、短軸 1.56 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 28cm である。

出土遺物（第 11・31 図、図版 12）

第 11 図 6 は、甕の底部小片である。第 31 図 4 は砥石で、4 面を砥面として使用している。

6 号住居跡（第 6 図、図版 4）

調査区北西部に位置し、標高は 20.3 m を測る。5 号住居跡、7 号住居跡、5 号土坑を切り、6 号土坑に切られる。平面長方形を呈し、規模は確認できる範囲で長軸 5.88 m、短軸 4.38 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 15～25cm である。床面の南北に 2 基の支柱穴を有し、深さはそれぞれ 47・48 cm を測る。床面中央やや西側や北壁付近で焼土を検出した。

出土遺物（第 29 図、図版 12）

土器は小片のみで、図化していない。第 29 図 3 は石庖丁の再加工品である。現状で長さ 10.4 cm、幅 3.5 cm を測り、穿孔は 2 か所とも残存する。

7 号住居跡（第 6 図、図版 4）

調査区北西部に位置し、標高は 20.2 m を測る。北側は調査区外に延び、南東部は 6 号住居跡に切られる。平面方形を呈し、規模は確認できる範囲で長軸 5.78 m、短軸 4.73 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 15～25cm である。床面に比較的大型のピットを持つが、支柱穴は明確でない。

出土遺物（第 11・31 図、図版 8・12）

第 11 図 14 は小型の壺で、口径 12.0 cm、器高 14.9 cm を測る。第 31 図 5 は小型の砥石で、5 面を砥面として使用している。

8 号住居跡（第 3 図、図版 4）

調査区北西端部に位置し、標高は 20.2 m を測る。西側は調査区外に延びる。比較的大型の住居跡であるが、遺構図の作図を失念したため、詳細は不明である。

出土遺物（第 12・30 図、図版 12）

第 12 図 8 は高坏の坏部で、復元口径 19.6 cm を測る。調整は、坏部内外面ともヘラミガキを施す。10 は小型の鉢で、復元口径 6.1 cm を測る。第 30 図 6 は砥石片で、2 面が砥面として使用されている。

9 号住居跡（第 7 図、図版 5）

調査区北部に位置し、標高は 19.9 m を測る。東側は調査区外に延び、北側は大きく削平を受け、南西部は 10 号住居跡に切られる。遺構は、貼床の一部とピット 1 基以外は確認できなかった。規模は、確認できる範囲で南北 2.34 m、東西 3.24 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 10cm である。

出土遺物（第 12 図）

第 12 図 11 は甕の口縁部小片である。

10号住居跡（第7図、図版5）

調査区北部に位置し、標高は19.9 mを測る。平面方形を呈する小型住居と考えられるが、西側は削平を受け、貼床が確認できたのは東側のみであった。掘方の規模は、長軸3.98 m、短軸3.52 mを測る。貼床面は遺構検出面から深さ最大10cmである。支柱穴は明確でない。

出土遺物（第12図、図版8）

第12図13は鉢で、復元口径16.8 cm、器高10.4 cmを測る。底部裏面に種子圧痕が残る。14は短頸壺で、復元口径8.2 cm、胴部最大径11.1 cm、器高6.5 cmを測る。

11号住居跡（第7図、図版5）

調査区北部に位置し、標高は20.0 mを測る。東側約半分の範囲は調査区外に延びる。規模は、長軸4.74 m、短軸は確認できる範囲で2.25 mを測る。貼床面は遺構検出面から深さ10～15cmである。

出土遺物（第29・30図、図版12）

第29図4は石庖丁片である。穿孔2か所が確認できる。第30図2は砥石で、4面を砥面として使用している。

12号住居跡（第7図、図版5）

調査区中央部付近に位置し、標高は19.9 mを測る。西側は調査区外に延び、北側は3号溝状遺構に、南側は13号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸3.70 m、短軸2.54 mを測る。検出時点で大きく削平を受けていたため、貼床面は確認できなかった。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図示していない。

13号住居跡（第8図、図版5）

調査区中央部に位置し、標高は20.0 mを測る。検出時の平面プランの状況から、12号住居跡、14号住居跡を切ると考えられるが、西側は大きく削平を受けており確認できなかった。規模は、確認できる範囲で長軸3.20 m、短軸2.74 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ15cmである。床面に多くのピットを確認したが、支柱穴は明確でない。

出土遺物（第13・33図、図版8・13）

第13図1は甕で、復元口径14.2 cmを測る。3・4は同一個体と考えられる高坏で、復元口径35.4 cm、復元裾部径18.4 cmを測る。坏部の内外面に暗文を施す。第33図1・2・4は鉄製品である。1は鑿状の鉄製品で、残存長11.6 cmを測る。

14号住居跡（第8図、図版5）

調査区中央に位置し、標高は20.0 mを測る。検出時の平面プランや遺物出土状況から、13・15号住居跡に切られると考えられる。規模は、確認できる範囲で長軸4.81 m、短軸3.17 mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ10cmである。

出土遺物（第13・29・30図、図版12）

第13図8は壺で、復元口径14.9 cmを測る。口唇部に刻み目を施す。第29図5は石庖丁片で、穿孔1か所が残る。第30図4は小型の砥石で、3面を砥面として使用している。

15号住居跡（第8図、図版5）

調査区中央に位置し、標高は20.0 mを測る。検出時の平面プランや遺物出土状況から、13号住

居跡に切られ、14号住居跡を切ると考えられる。規模は、確認できる範囲で長軸5.01m、短軸2.30mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ10cmである。

出土遺物（第13図、図版8）

第13図10は支脚、11・12は器台で、いずれも遺構図中に掲載した資料である。

16号住居跡（第8図、図版5）

調査区中央部付近に位置し、標高は20.3mを測る。西側大部分は調査区外に延び、北側は23号住居跡に切られる。南側は削平を受け、残存していない。規模は、確認できる範囲で長軸4.56m、短軸1.28mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ5cmである。

出土遺物（第13図）

第13図13は小型の鉢で、復元口径13.8cm、器高7.7cmを測る。

17号住居跡（第9図、図版5）

調査区中央やや南部に位置し、標高は20.2mを測る。西側は調査区外に延びる。規模は、確認できる範囲で長軸4.28m、短軸3.17mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ16cmである。床面に明瞭な主柱穴2基が確認でき、深さはそれぞれ50・64cmを測る。床面付近から大量の遺物が出土した。

出土遺物（第14・15・29・30・32図、図版9・12）

第14図1は大型の甕で、口径35.6cmを測る。胴部外面は、ヘラケズリの後にタタキを施す。外面頸部に突帯1条を有する。2から5は中型の甕で、口径は18.5～23.4cmを測る。6は壺で、口径12.5cm、器高24.5cmを測る。第15図2から5は短頸壺で、口径は12.6～17.0cmを測る。8は高坏で、復元口径23.5cmを測る。脚部中位に、外側から内側に向けて、穿孔4か所を施す。第29図1は、残りの良い石庖丁である。長さ13.1cm、幅5.1cm、厚さ0.6cmを測る。穿孔2か所が残る。第30図1は、砥石である。3面を砥面として使用している。第32図3は、ほぼ完形の土製投弾である。長さ4.0cm、幅2.3cmを測る。

18号住居跡（第9図）

調査区中央部付近に位置し、標高は20.2mを測る。東側大部分は調査区外に延び、南側は5号溝状遺構に切られる。貼床は確認できていない。規模は、確認できる範囲で長軸4.56m、短軸0.96mを測り、床面は遺構検出面から深さ11cmである。

出土遺物（第30図、図版12）

土器は小片のみで、図化していない。第30図3は小型の砥石で、5面を砥面として使用している。

19号住居跡（第9図、図版5）

調査区南部に位置し、標高は20.3mを測る。東側は調査区外に延び、南側は20号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸5.80m、短軸4.46mを測り、貼床面は遺構検出面から深さ25cmである。下層遺構として、南側の20号住居跡にかけて土坑状の掘り込みがあるが、性格は不明である。

出土遺物（第13図、図版8）

第13図14は甕で、復元口径14.8cmを測る。15も甕だが、頸部は短く、屈曲して立ち上がる。

20号住居跡（第9図、図版5）

調査区南部に位置し、標高は20.4mを測る。東側一部は調査区外に延び、19号住居跡を切る。

規模は、長軸 5.44 m、短軸 4.06 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 22cm である。床面に 4 基のピットを確認したが、支柱穴は明確でない。

出土遺物 (第 16・29・31 図、図版 9・10・13)

出土土器には弥生土器を含むが、中心は土師器である。第 16 図 1 は甕で、口径 15.7 cm、胴部最大径 19.3 cm、器高 21.6 cm を測る。調整は、胴部内面がヘラケズリ、外面上位がタタキ、下位がハケ目後ミガキ様の工具ナデである。5 も甕で、口径 18.2 cm を測る。外面上位に丁寧なタタキを施す。6 はミニチュアの壺で、口径 3.3 cm、器高 5.7 cm を測る。外面底部付近には、手持ちヘラケズリを施す。9 から 11 は高坏である。9 は復元口径 11.0 cm、裾部径 8.4 cm、器高 10.0 cm を測る。第 29 図 9 は小型の磨石で、第 31 図 1・3 は台石である。

21 号住居跡 (第 10 図、図版 5)

調査区南部に位置し、標高は 20.4 m を測る。東側は調査区外に延びる。6 号溝状遺構との切り合い関係については、当住居跡の貼床下に 6 号溝状遺構の埋土を確認したことから、6 号溝状遺構掘削・埋没→21 号住居跡掘削・埋没→6 号溝状遺構再掘削の順と考えられる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.12 m、短軸 3.69 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 21cm である。床面で検出したピットのうち、大型の 2 基が支柱穴と考えられる。深さはそれぞれ 63・65 cm を測る。

出土遺物 (第 15・30・31 図、図版 9・12)

第 15 図 10 は短頸壺で、復元口径 15.3 cm、器高 15.4 cm を測る。口縁部 2 か所に穿孔を施す。底部裏面に種子圧痕が残る。11 も壺で、口径 7.7 cm、器高 14.6 cm を測る。口縁部は打ち欠きである。第 30 図 7・第 31 図 6 は砥石である。

22 号住居跡 (第 10 図、図版 6)

調査区南端に位置し、標高は 20.0 m を測る。北側を 6 号溝状遺構に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.35 m、短軸 4.33 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 31cm である。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

23 号住居跡 (第 8 図)

調査区中央部に位置し、標高は 20.2 m を測る。西側大部分が調査区外に延び、北側を 14・15 号住居跡、南側を 16 号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 4.80 m、短軸 0.88 m を測り、貼床面は遺構検出面から深さ 15cm である。

出土遺物 (第 31 図、図版 13)

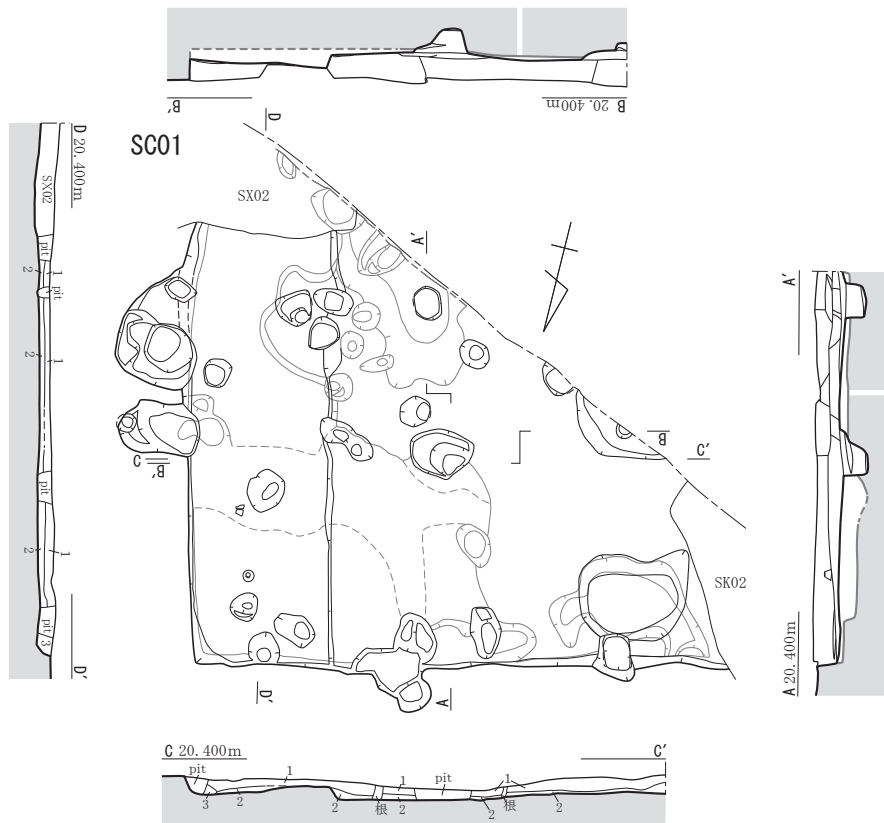
土器は小片のみで、図化していない。第 31 図 2 は砥石で、3 面を砥面として使用している。

25 号住居跡 (第 10 図)

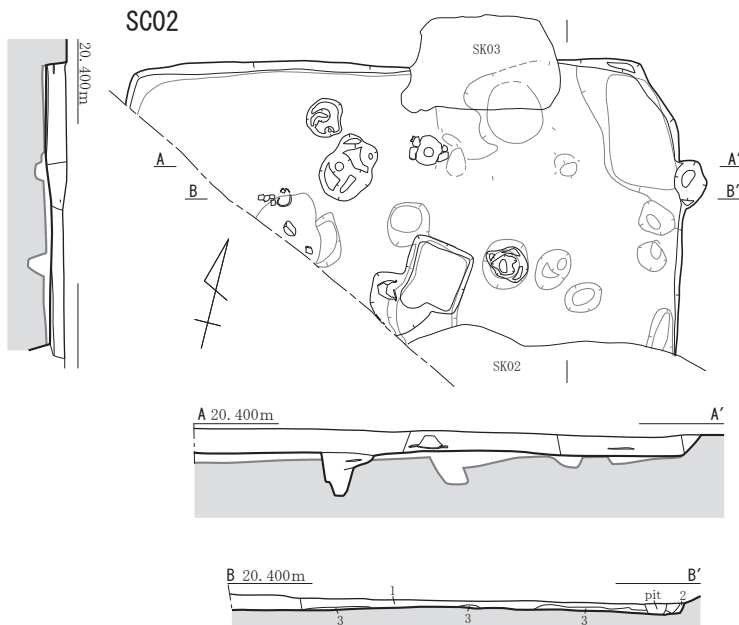
調査区中央部付近に位置し、標高は 20.3 m を測る。東側大部分が調査区外に延び、南側を 5 号溝状遺構に切られる。規模は、確認できる範囲で長軸 2.94 m、短軸 0.88 m を測り、床面は遺構検出面から深さ 33cm である。貼床は検出できていない。なお、遺構の性格は、住居跡ではなく、土坑の可能性はある。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。



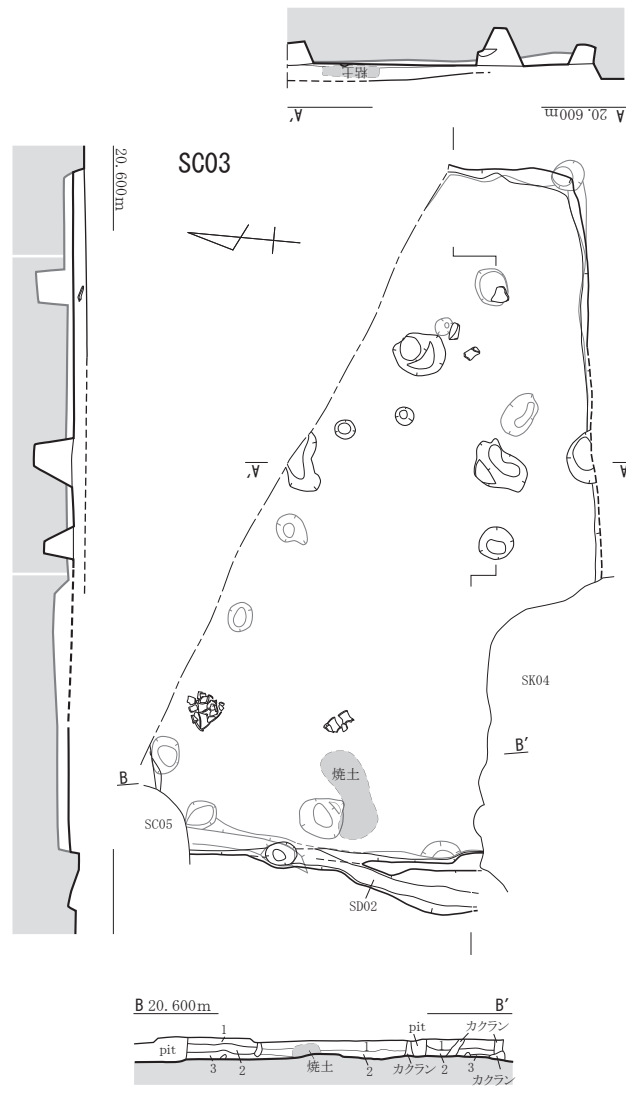
- 1 Hue10YR2/1 黒色粘質土 (しまりあり)
- 2 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (しまりあり、Hue10YR6/6 明黄褐色砂質土を含む)
- 3 Hue5Y4/1 灰色砂質土 (しまらない、Hue10YR6/6 明黄褐色粘質土を含む)



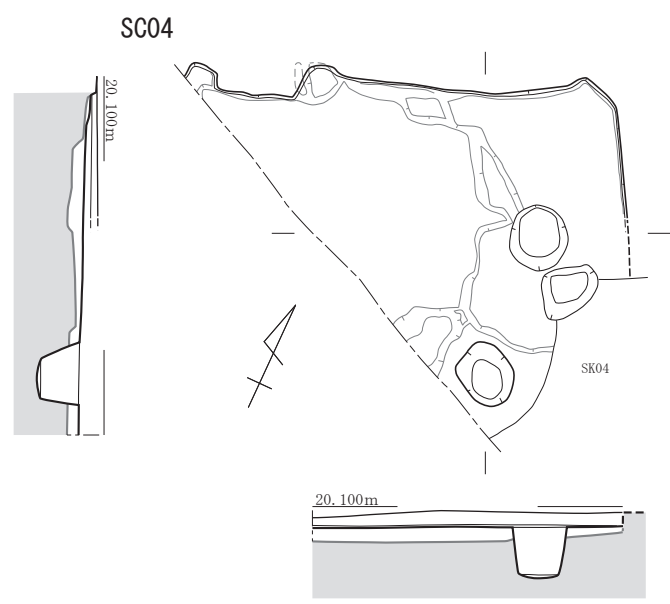
- 1 Hue7.5YR3/1 黒褐色砂質土 (しまらない)
- 2 Hue7.5YR3/1 黒褐色砂質土 (Hue10YR7/6 明黄褐色砂湿土を含む)
- 3 Hue7.5YR3/1 黒褐色砂質土 (Hue10YR7/6 明黄褐色粘質土を少量含む)



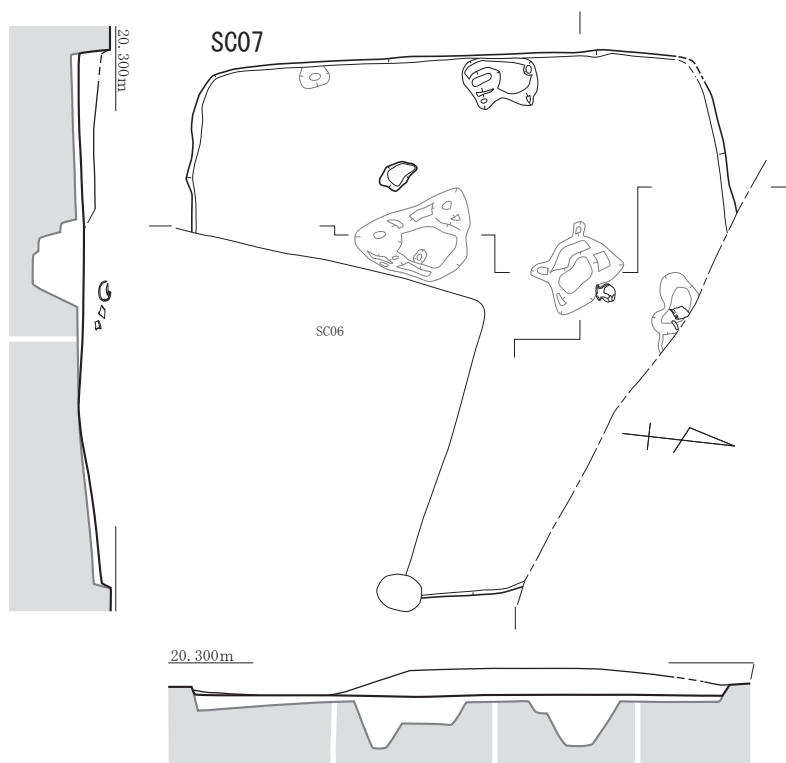
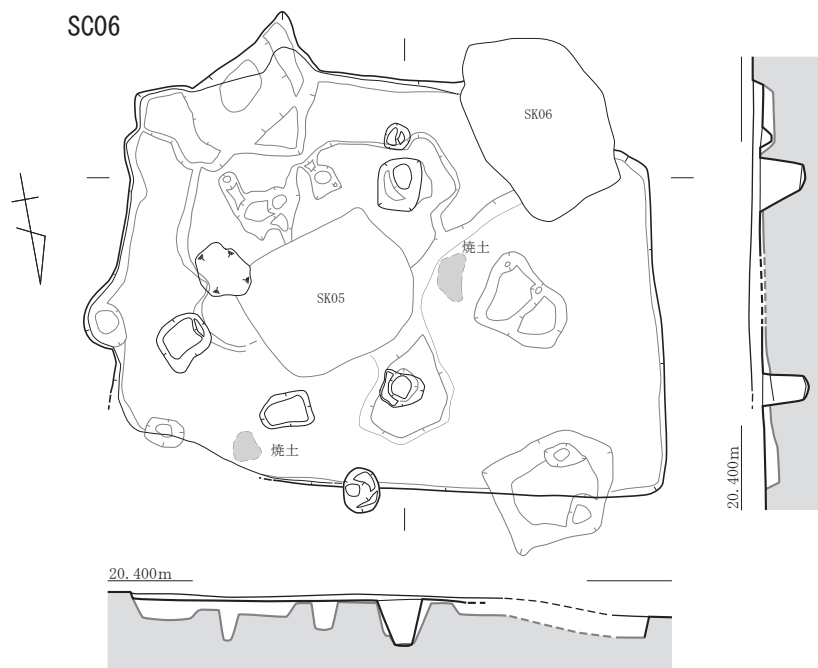
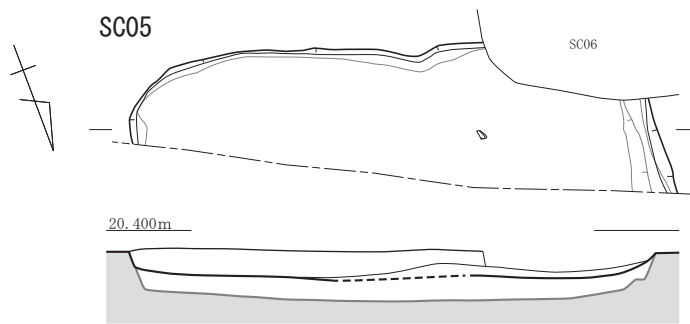
第4図 1・2号住居跡実測図 (S=1/80)



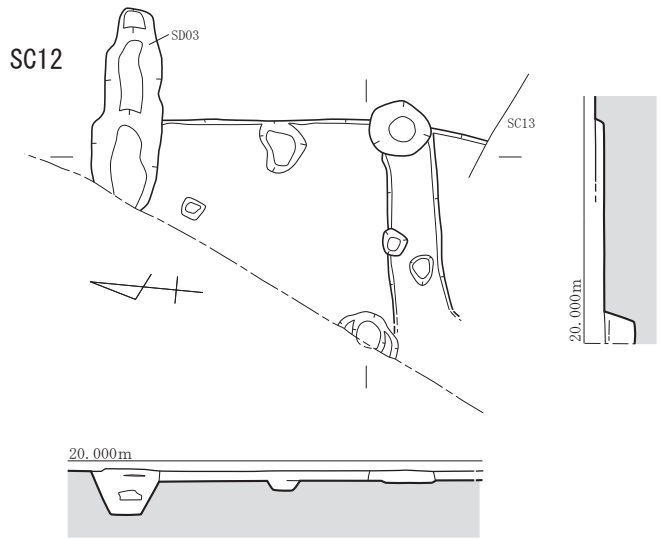
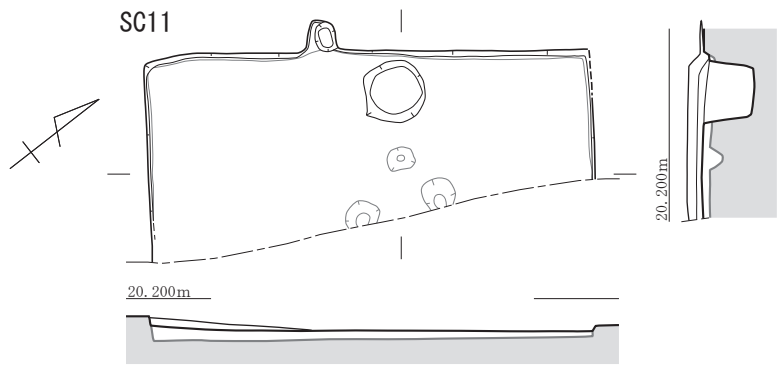
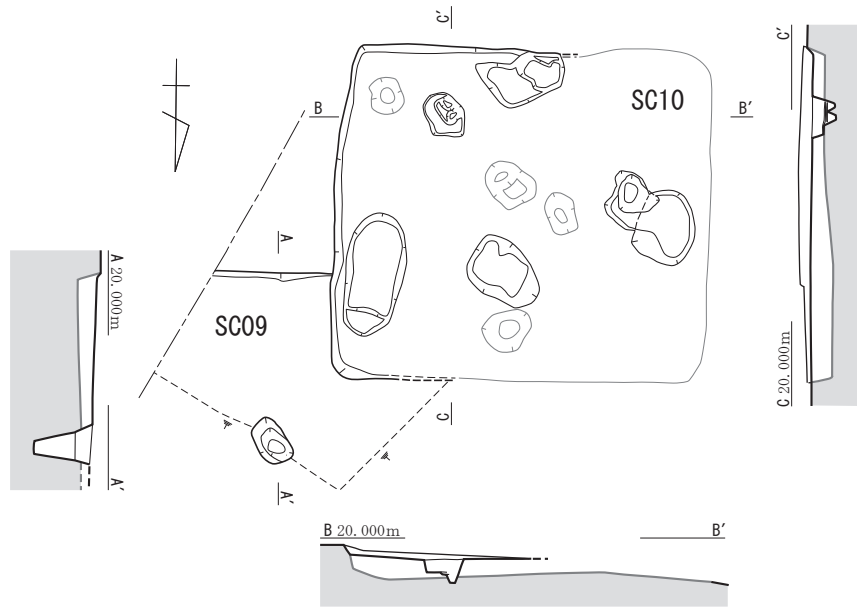
- 1 Hue7.5YR2/2 黒褐色砂質土 (しまりあり)
- 2 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (ややしまる)
- 3 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (ややしまる、Hue10YR6/8 明黄褐色粘質土を少量含む)



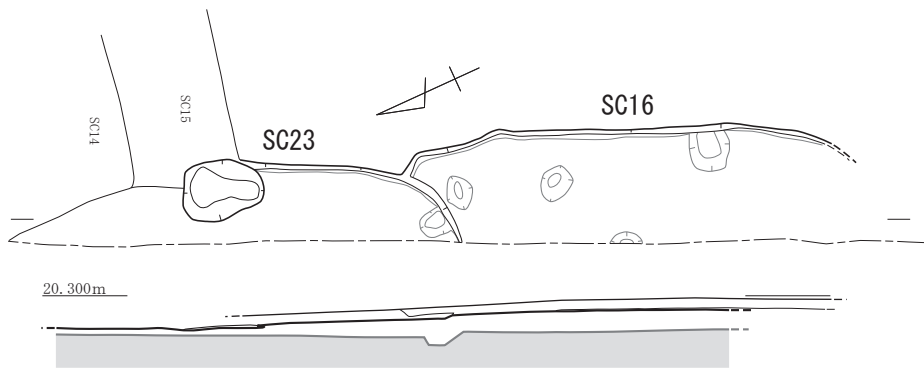
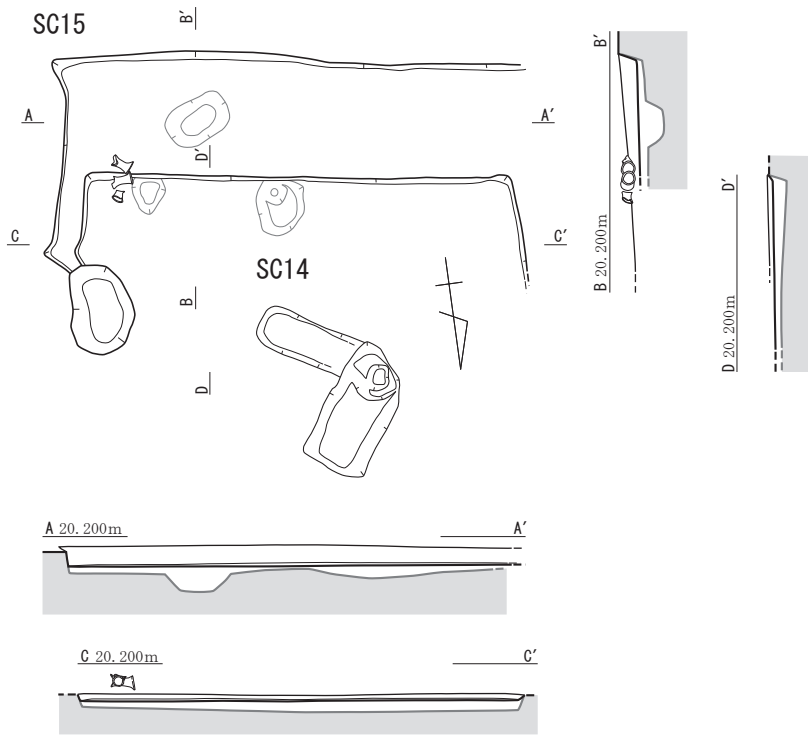
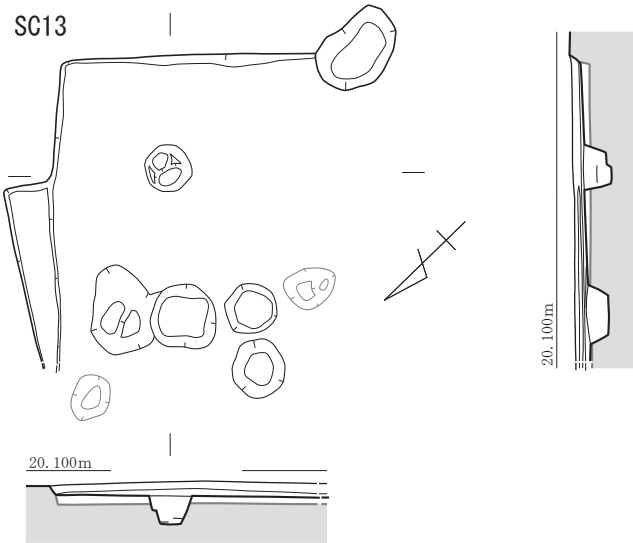
第5図 3・4号住居跡実測図 (S=1/80)



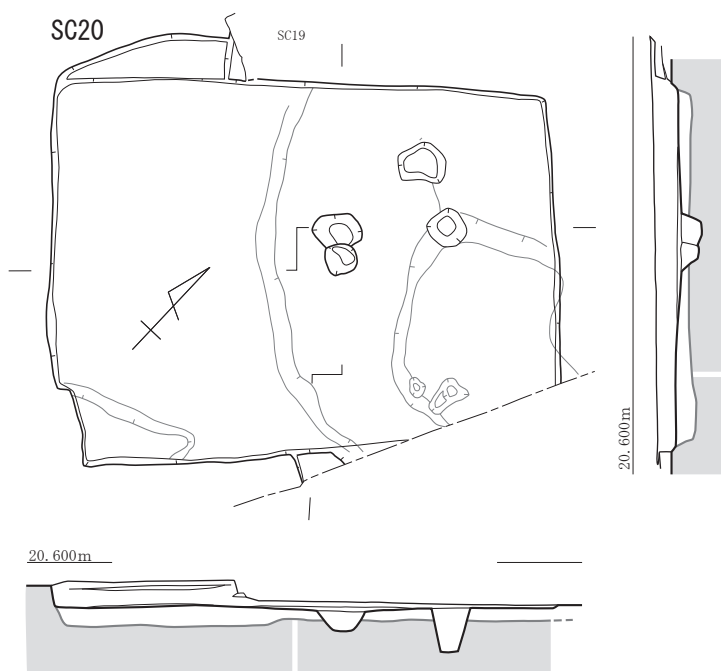
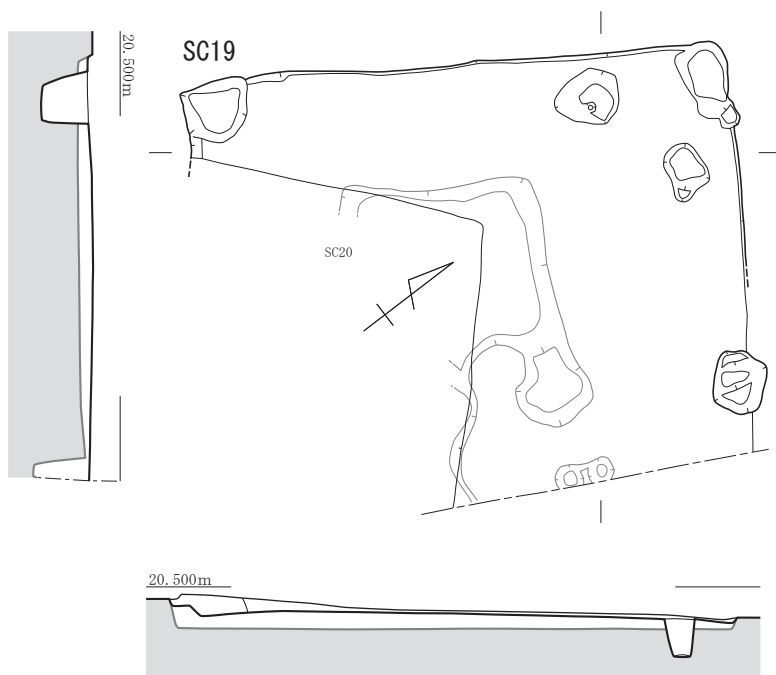
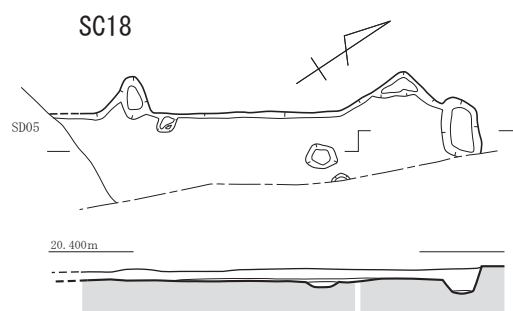
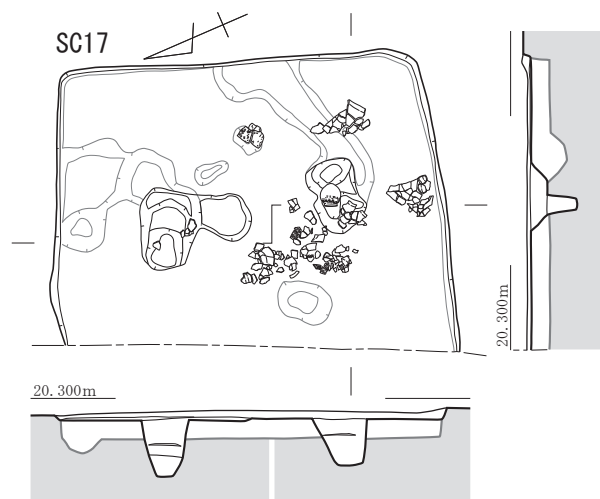
第6図 5～7号住居跡実測図 (S=1/80)



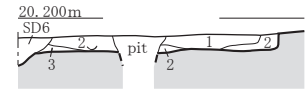
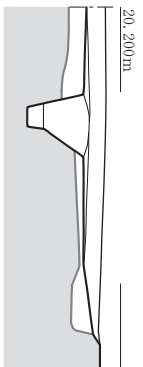
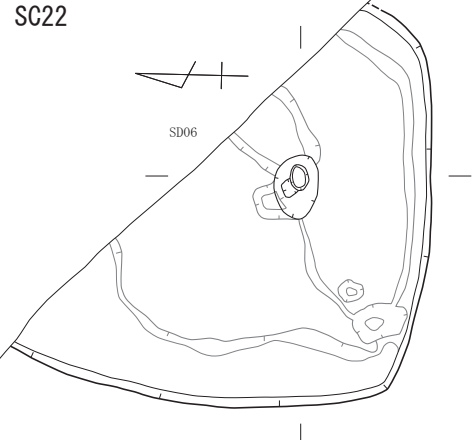
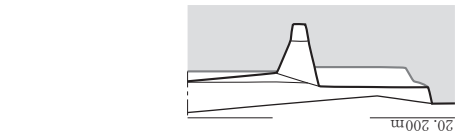
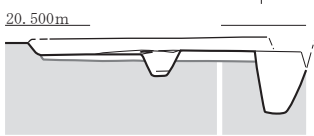
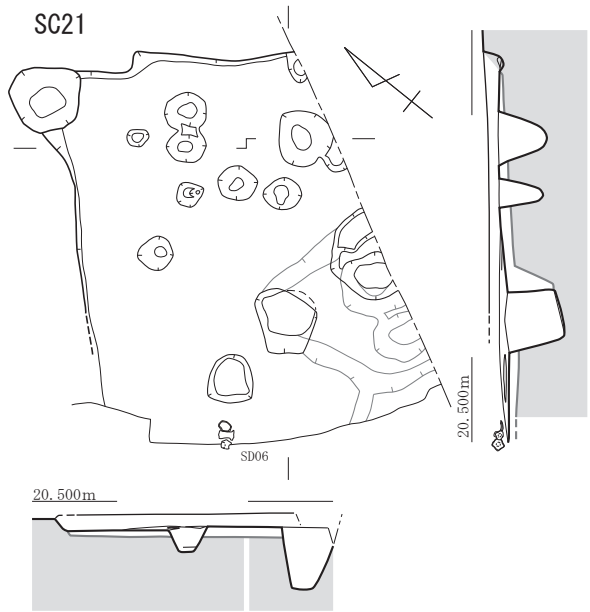
第7图 9~12号住居跡実測図 (S=1/80)



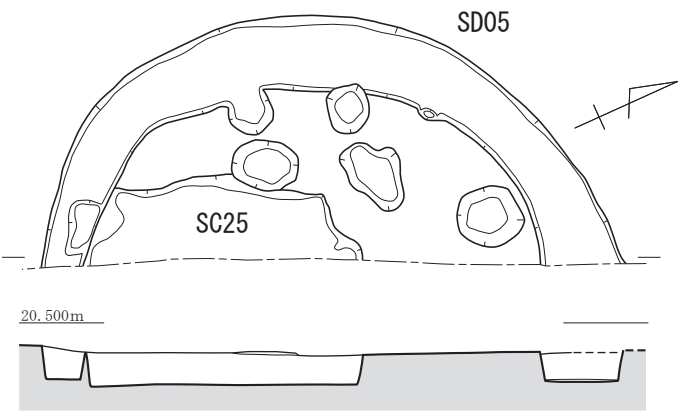
第8図 13～16・23号住居跡実測図 (S=1/80)



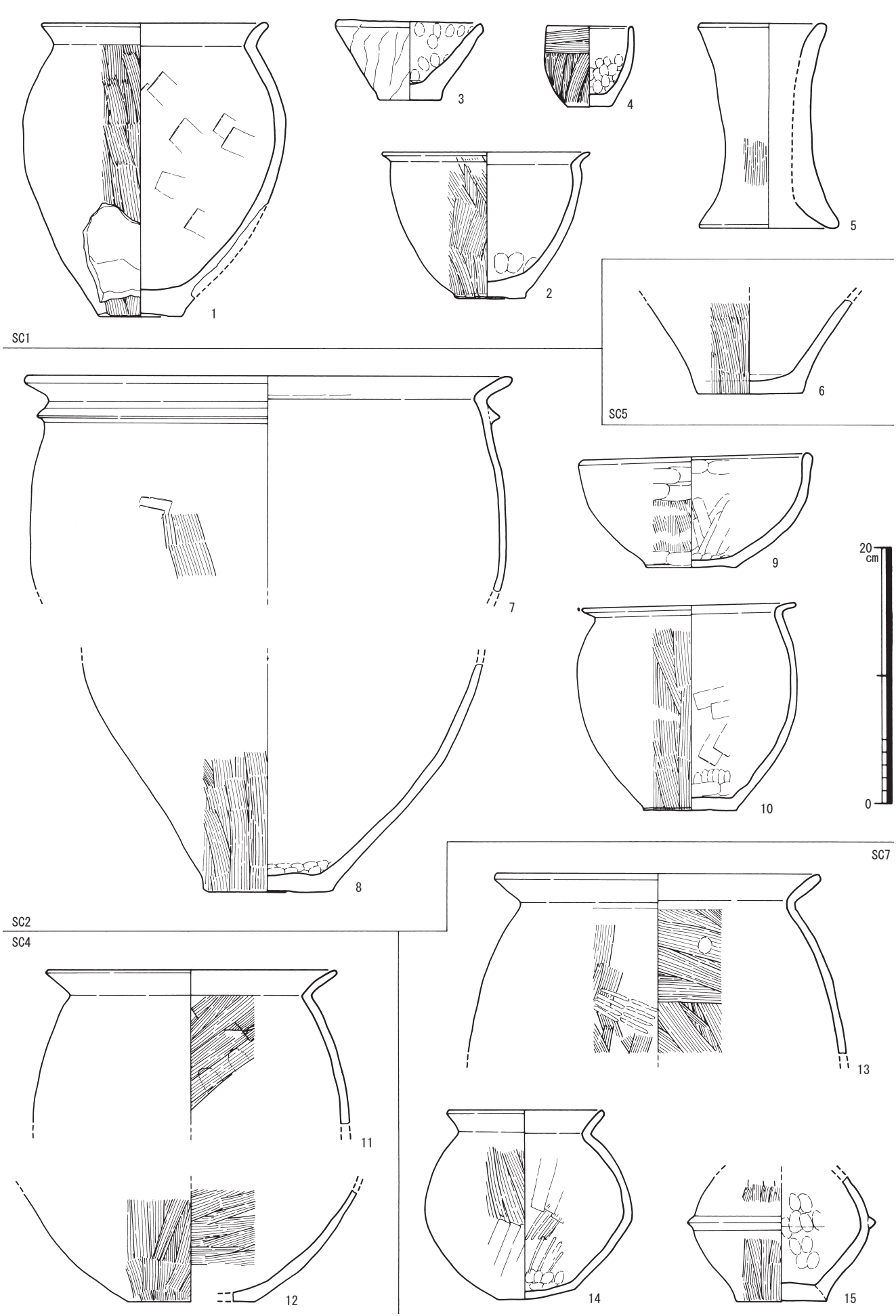
第9図 17～20号住居跡実測図 (S=1/80)



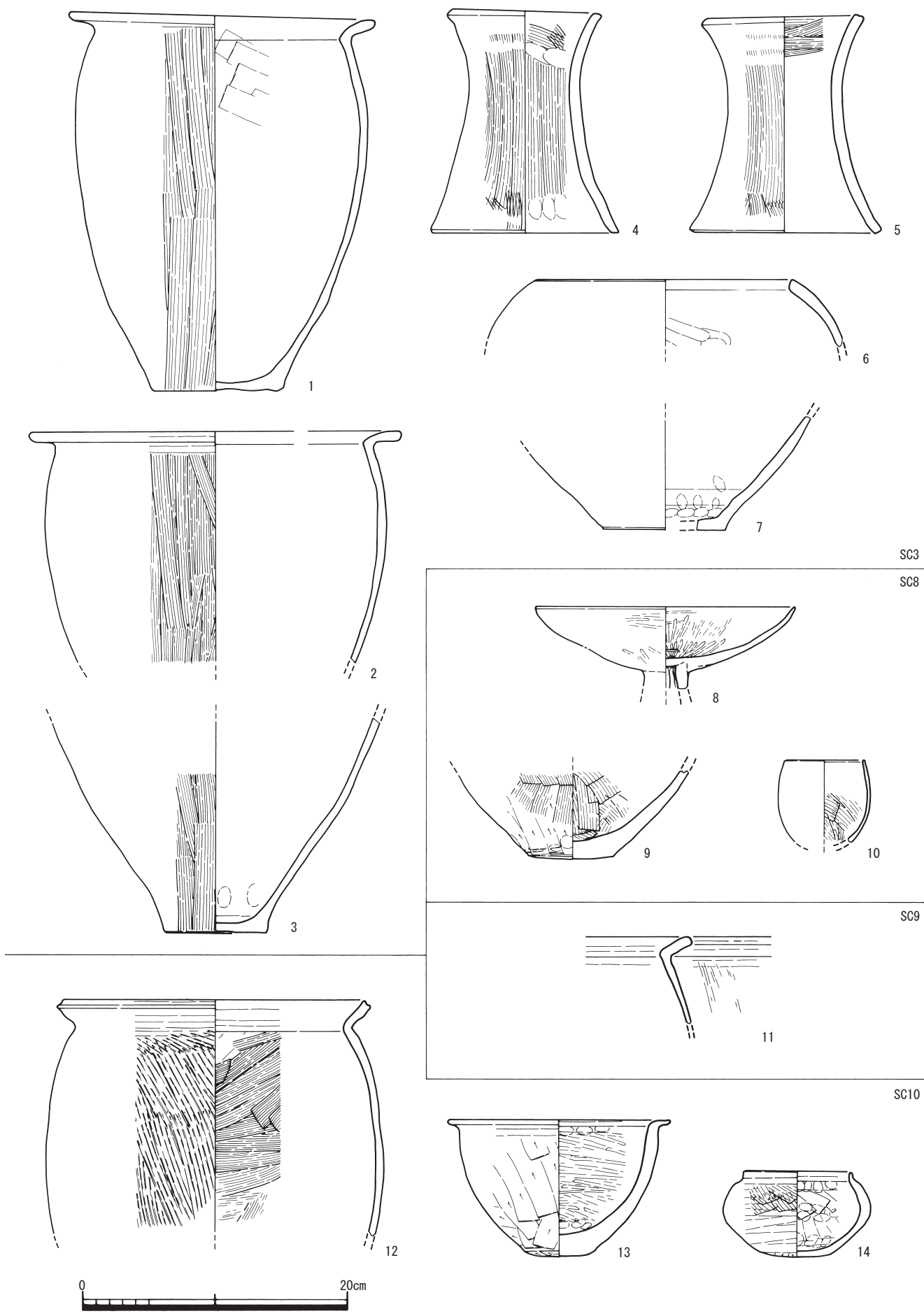
- 1 黒色+明黄褐色土
- 2 黒色(明黄褐色粘土質を少量含む)
- 3 黒色



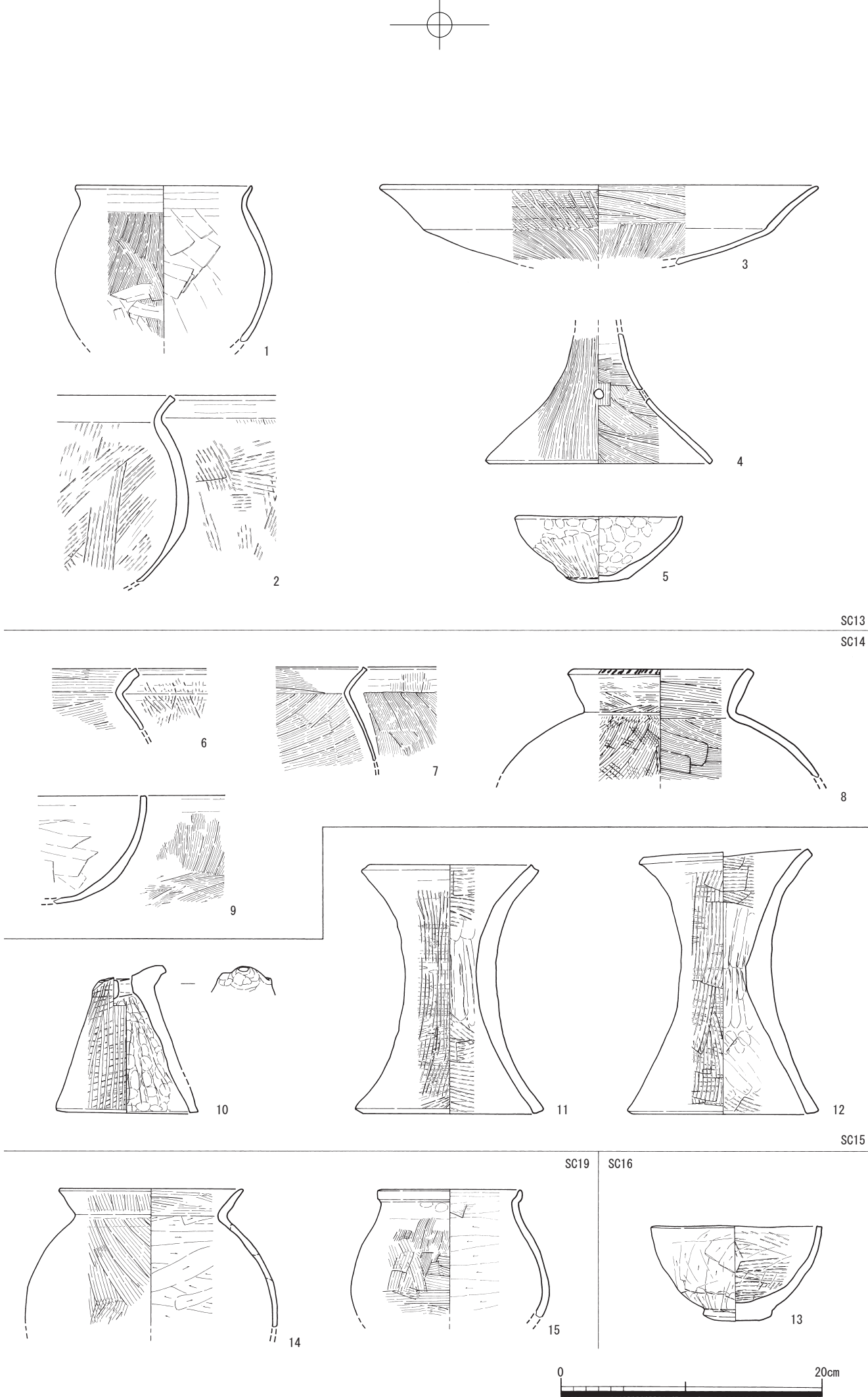
第10図 21・22・25号住居跡・5号溝状遺構実測図 (S=1/80)



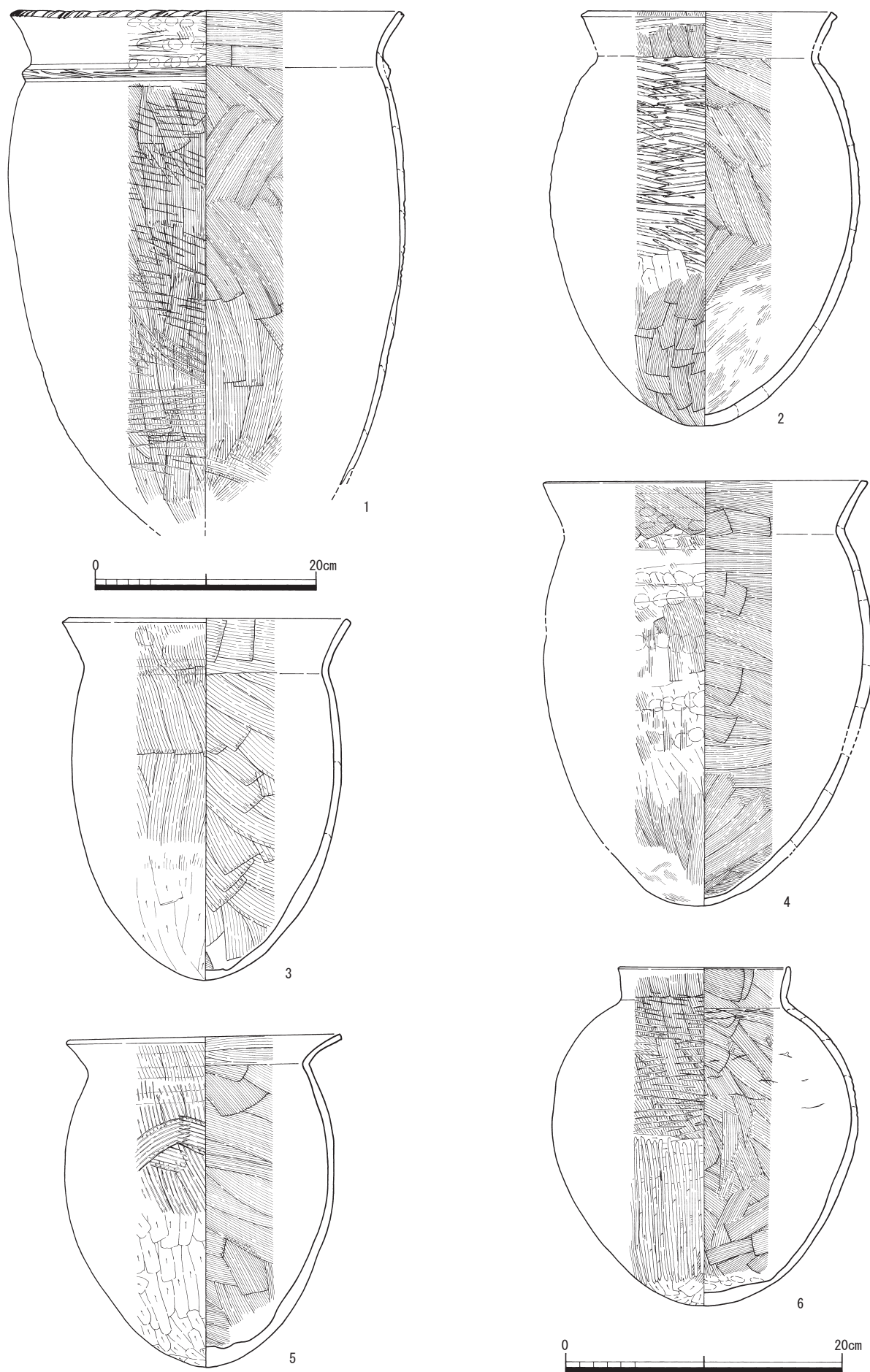
第11图 1·2·4·5·7号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)



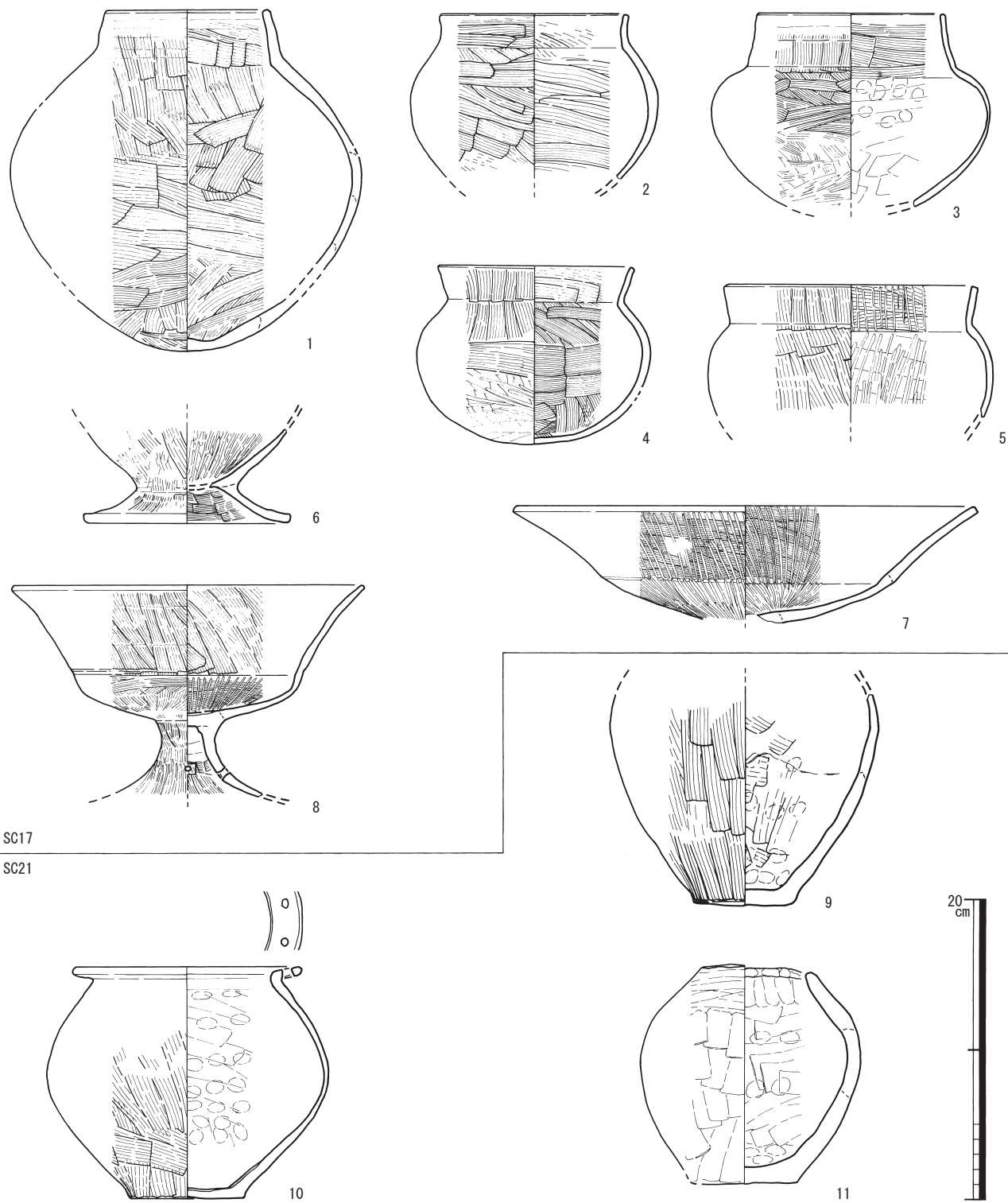
第 12 图 3・8～10 号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)



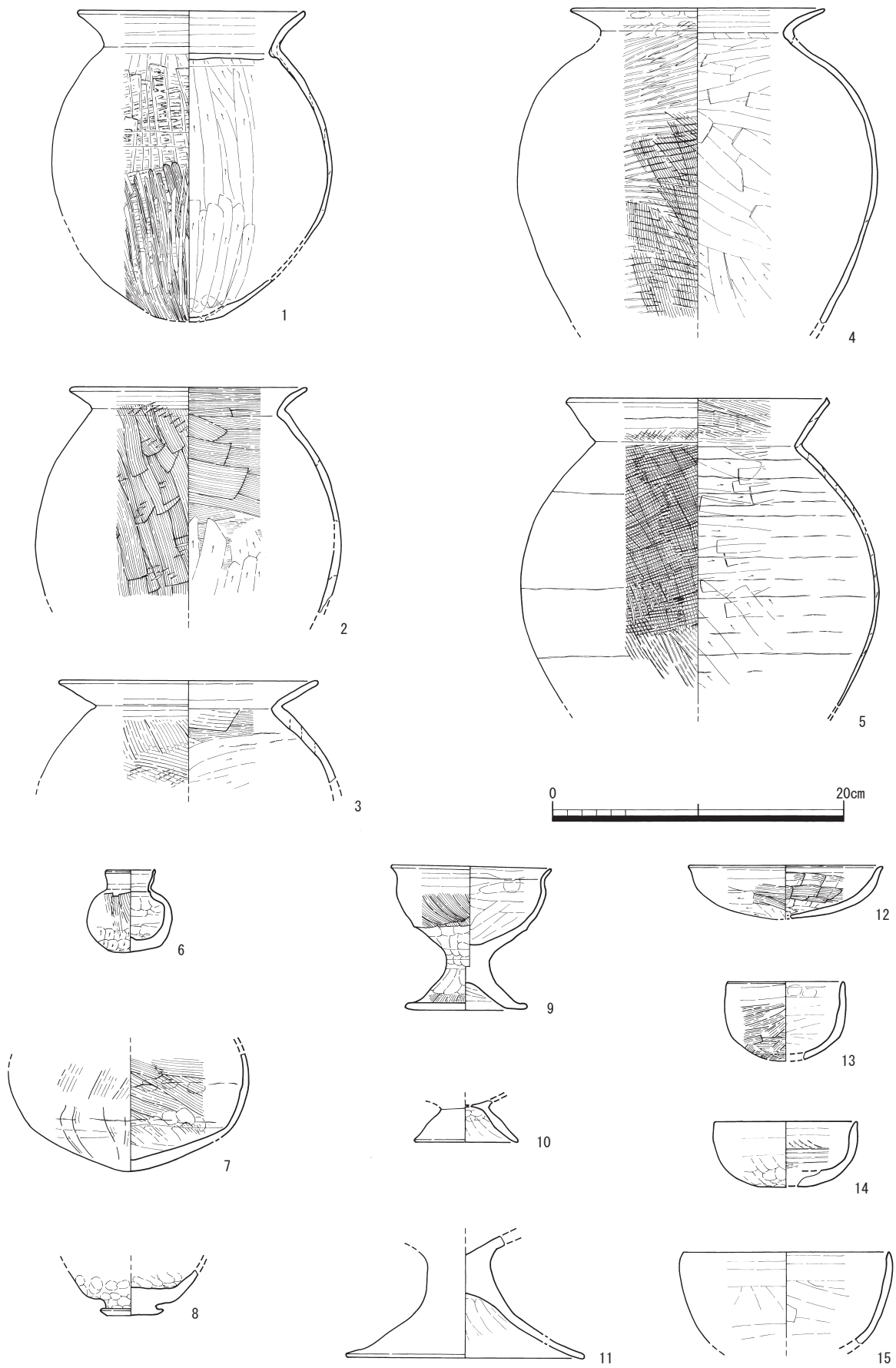
第13图 13・14～16・19号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)



第14図 17号住居跡出土土器実測図(1はS=1/5、他はS=1/4)



第 15 图 17・21 号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)



第16图 20号住居跡出土土器実測図 (S=1/4)

2. 土坑

1号土坑（第3図）

調査区北東隅部に位置し、標高は20.2 mを測る。規模は、長軸1.83 m、短軸1.27 mを測るが、遺構の深さは調査時に計測を失念しており、不明である。

出土遺物（第19・29図、図版12）

第19図1は甕の口縁部小片、2は壺の底部である。第29図7は台石で、現状の長さ12.5 cmを測る。8は磨石で、長さ11.4 cmを測る。

2号土坑（第17図、図版6）

調査区北東部に位置し、標高は20.0 mを測る。南側大部分は調査区外に延び、東側は1号住居跡を切る。規模は、確認できる範囲で長軸5.94 m、短軸1.71 mを測る。床面にはピットが多く、凹凸も多いが、深さは最大63cmである。

出土遺物（第19図、図版10）

第19図5は小型の甕で、復元口径15.8 cm、器高14.9 cmを測る。口縁部は緩やかに外反する。

3号土坑（第18図、図版6）

調査区北東部に位置し、標高は20.3 mを測る。2号住居跡を切る。規模は、長軸1.70 m、短軸1.01 mを測り、深さは37 cmである。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

4号土坑（第17図、図版6）

調査区北部に位置し、標高は20.0 mを測る。南側は一部調査区外に延び、北側は3号住居跡を、西側は4号住居跡を切る。規模は、確認できる範囲で長軸4.44 m、短軸3.65 mを測る。床面は比較的平坦だが、小型のピットを多く検出した。深さは最大17cmである。

出土遺物（第19図）

第19図7は大型の甕で、復元口径30.0 cm、復元胴部最大径50.1 cmを測る。11は鉢で、復元口径12.6 cmを測る。12は高坏の坏部小片である。

5号土坑（第18図、図版6）

調査区北部に位置し、検出面の標高は20.1 mを測る。遺構全体を6号住居跡に切られる。規模は、長軸1.98 m、短軸1.46 m、深さ86 cmを測る。

出土遺物（第20図）

第20図1は甕で、復元口径28.8 cmを測る。2は弥生土器の把手で、器種は不明である。

6号土坑（第18図）

調査区北部に位置し、検出面の標高は20.1 mを測る。6号住居跡を切る。規模は、長軸2.04 m、短軸1.42 m、深さ76 cmを測る。出土遺物はない。

7号土坑（第18図、図版6）

調査区北部に位置し、標高は20.0 mを測る。東側は一部調査区外に延びる。規模は、確認できる範囲で長軸3.02 m、短軸1.41 mを測る。床面は二段掘りになっており、深さは最大120cmである。

埋土中位を中心に大量の遺物が出土した。

出土遺物（第21～24・29・32図、図版10・11・12）

第21図1・2は甕の蓋である。1は口径30.5cm、器高10.6cmを測る。3から5は樽型の甕である。口径は25.3～26.2cm、器高は24.7～27.9cmを測る。第21図6から第22図2は甕である。口径は29.8～33.5cm、器高は35.7～38.4cmを測る。第22図3から6は壺で、4は口径31.8cm、器高29.6cmを測る。3・6は丹塗土器で、頸部内面に丁寧なミガキを施す。第23図1はミニチュア土器の壺で、丹塗土器である。2から6は短頸壺で、口径は12.3～18.0cm、器高は10.7～15.8cmを測る。4は、口唇部に穿孔2つ×2か所が施される。7は鉢で、口径15.6cm、器高8.3cmを測る。8～10は支脚、11～13は器台である。第24図1～4は高坏で、いずれも丹塗土器である。口縁部上面に暗文を施す。第29図6は磨石で、長さ12.8cmを測る。第32図5は不明土製品で、長さ3.4cmを測る。非常に細い穿孔を施す。

8号土坑

8号土坑は、調査時は単独の土坑としていたが、整理段階で21号住居跡の下層遺構と位置付けた。

出土遺物（第20図、図版10）

第20図4はミニチュア土器である。口径7.3cm、器高5.7cmを測る。5と7は高坏で、いずれも丹塗土器である。口縁部上面に暗文を施す。

3. 溝状遺構

1号溝状遺構（第3図、図版6）

調査区北東部に位置し、標高は20.0mを測る。規模は、長さ4.37m以上、幅0.85mを測るが、遺構の深さは調査時に計測を失念しており、不明である。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

2号溝状遺構（第5図）

調査区北東部に位置し、標高は20.3mを測る。東側を3号住居跡に、南側を4号土坑に切られる。規模は、確認できる範囲で長さ3.06m、幅0.46m、深さ22cmを測る。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

3号溝状遺構（第7図）

調査区中央部付近に位置し、標高は19.9mを測る。西側は調査区外に延びる。規模は、確認できる範囲で長さ2.22m、幅0.74m、深さ43cmを測る。

出土遺物（第26・29図、図版12）

第26図3は甕で、復元口径29.8cmを測る。口縁部上面に施文が見られる。第29図2は石庖丁で、現状で長さ8.6cmを測る。穿孔を2か所施す。

4号溝状遺構（第3図）

調査区中央部付近に位置し、標高は19.9mを測る。東側は調査区外に延び、西側は12号住居跡に切られる。規模は、確認できる範囲で長さ4.68m、幅1.08mを測るが、遺構の深さは調査時に計測を失念しており、不明である。

出土遺物

出土土器は小片のみで、図化していない。

5号溝状遺構（第10図、図版7）

調査区中央部付近に位置する周溝状遺構で、標高は20.3 mを測る。東側は調査区外に延び、25号住居跡を切る。規模は、確認できる範囲で長さ6.40 m、幅2.57 mを測り、溝は最大幅79 cm、深さ32 cmである。内部にピット群を確認したが、遺構に伴うかどうかは不明。

出土遺物（第26図）

第26図1は土師器の甕、2は弥生土器の甕である。

6号溝状遺構（第25図、図版7）

調査区南端部に位置し、標高は20.1 mを測る。東西ともに調査区外に延びる直線的な溝である。遺構の北側は21号住居跡と、南側は22号住居跡と切り合い関係にあるが、土層観察により、①22号住居跡、②6号溝状遺構（古段階）、③21号住居跡、④6号溝状遺構（新段階）の順となることが把握できた。遺構の長さは現状で7.57 mで、幅は古段階が3.38 m、新段階が2.73 m、深さは古段階が1.21 m、新段階が0.88 mを測る。

出土遺物（第27・28・32図、図版11）

第27図は上層出土土器である。1は甕で、復元口径29.4 cm、器高33.3 cmを測る。2は樽型の甕で、口径23.3 cm、器高25.6 cmを測る。4は小型の壺で、口径8.7 cm、器高9.8 cmを測る。5・6は短頸壺で、6は丹塗土器である。8は筒形器台だが一般的な形状でなく、受部まで直線的に立ち上がる。受部径は12.9 cmを測る。第28図1～6は下層出土土器で、3は筒形器台である。復元鏝部径25.8 cmを測り、上部には暗文を施す。第28図7～10は、出土層位不明の土器である。7は甕で、復元口径30.8 cm、器高37.2 cmを測る。第32図4は土製投弾で、長さ3.5 cmを測る。

4. 不明遺構

1号不明遺構（第3図、図版7）

調査区北東端部に位置し、標高は20.2 mを測る。北側・東側とも調査区外に延び、遺構の形状や規模は不明である。

出土遺物（第26図）

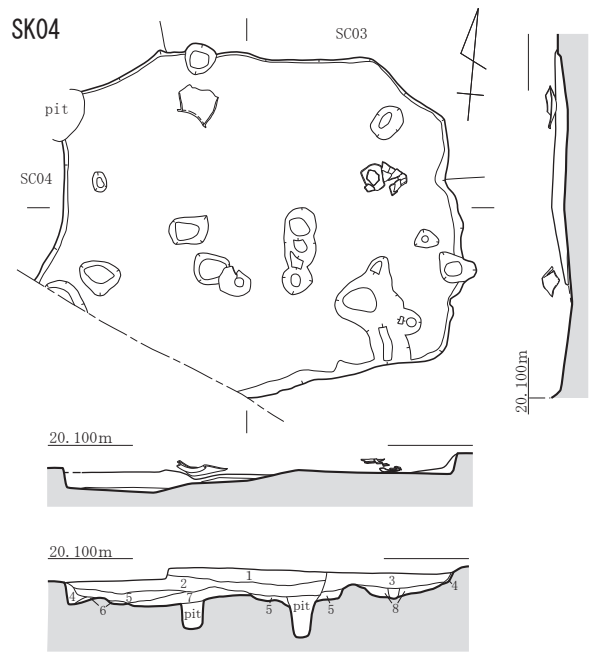
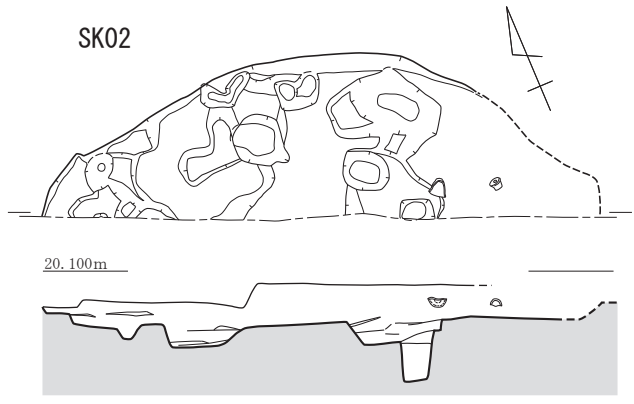
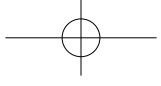
第26図5は弥生土器の甕、6は土師器の甕である。

2号不明遺構（第3図、図版7）

調査区北東端部に位置し、標高は20.2 mを測る。南側・東側とも調査区外に延び、遺構の形状や規模は不明である。

出土遺物（第26図）

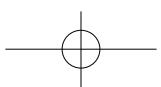
第26図7は小型丸底壺で、復元口径11.9 cmを測る。8はやや大型の器台である。

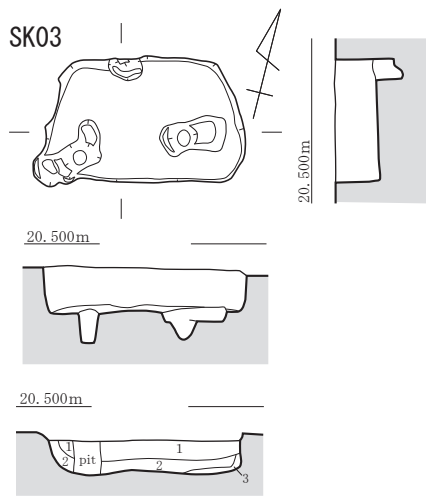


- 1 Hue10YR3/1 黒褐色砂質土 (しまらない)
- 2 Hue10YR3/2、黒褐色砂質土 (しまりあり)
- 3 Hue10YR2/1 黒色砂質土
- 4 Hue10YR3/1 黒褐色粘質土 (Hue10YR5/1 にふい黄褐色粘土を含む)
- 5 Hue10YR3/1 黒褐色砂質土 (しまりあり)
- 6 Hue10YR3/2 黒褐色粘質土 (Hue10YR7/6 明黄褐色粘土を含む)
- 7 Hue10YR3/2 黒褐色粘質土 (しまりあり)
- 8 Hue10YR2/1 黒色砂質土

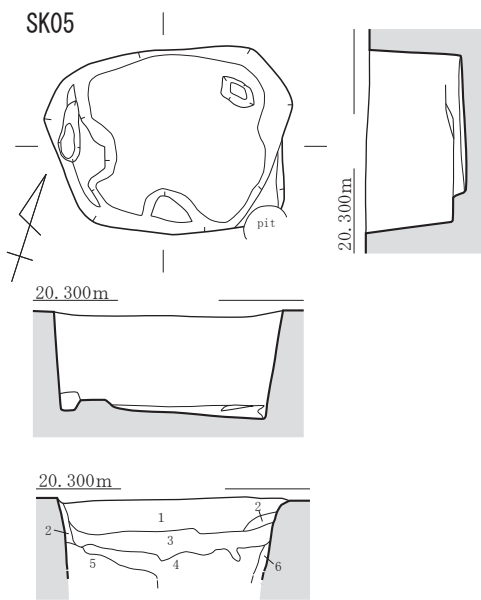


第 17 図 2・4 号土坑実測図 (S=1/80)

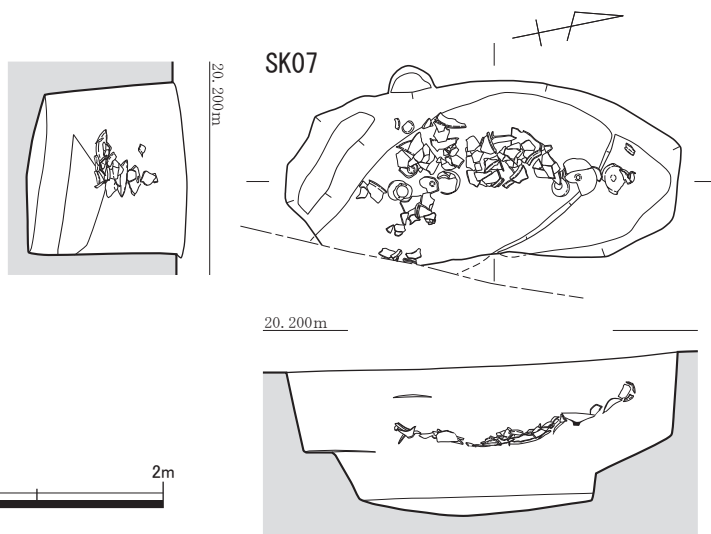
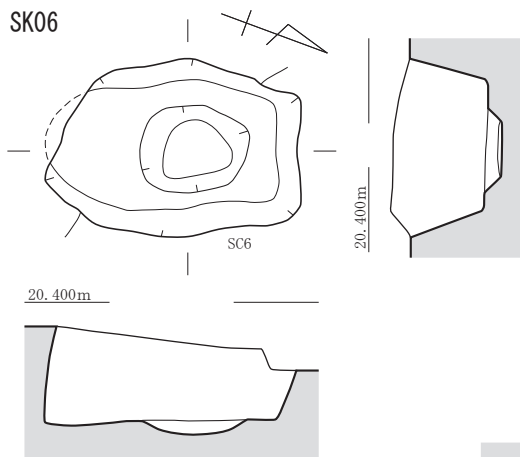




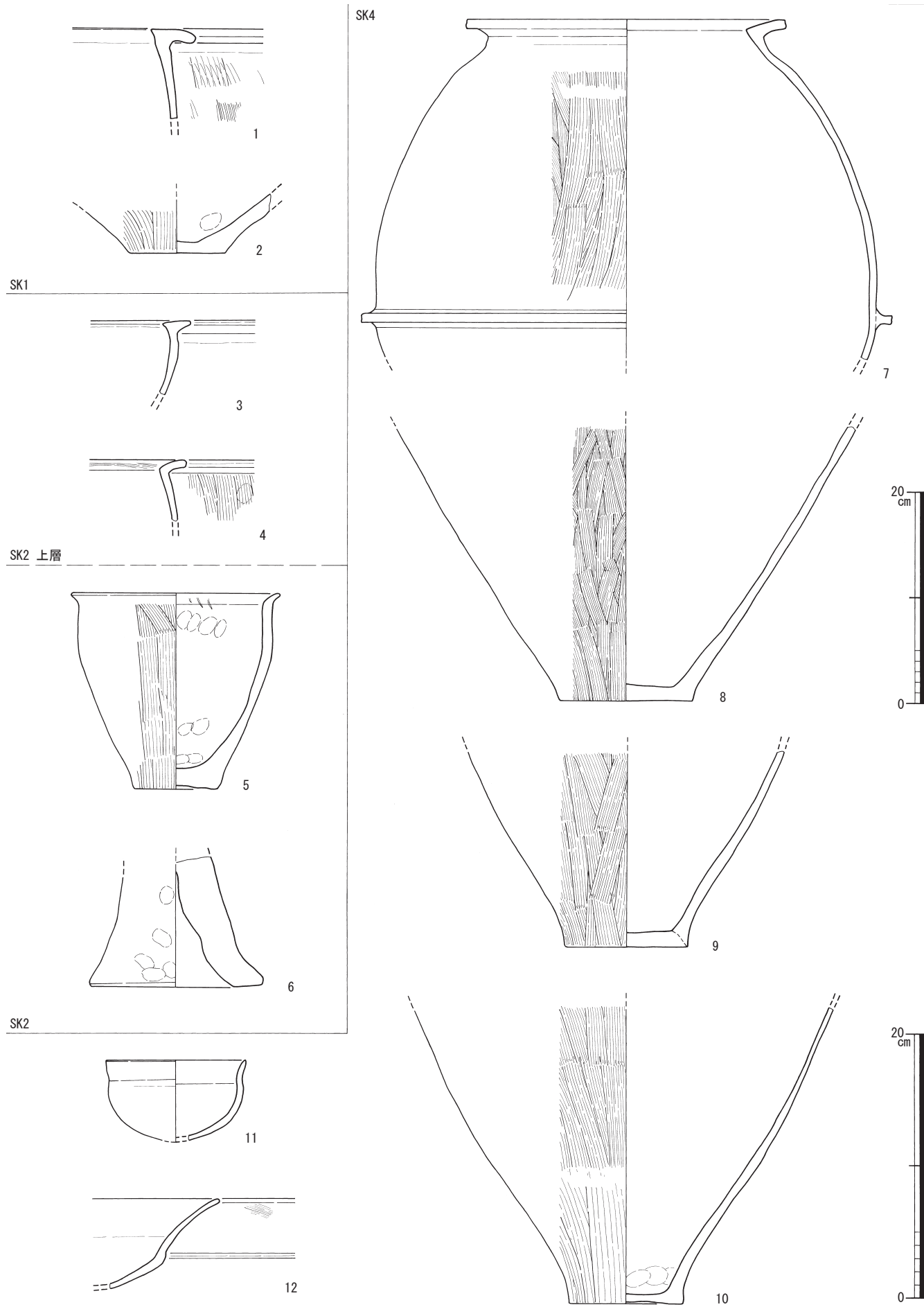
- 1 Hue10YR2/1 黒色砂質土
- 2 Hue10YR3/1 黒褐色粘質土
- 3 Hue10YR3/1 黒褐色粘質土、明黄褐色粘土ブロックを含む



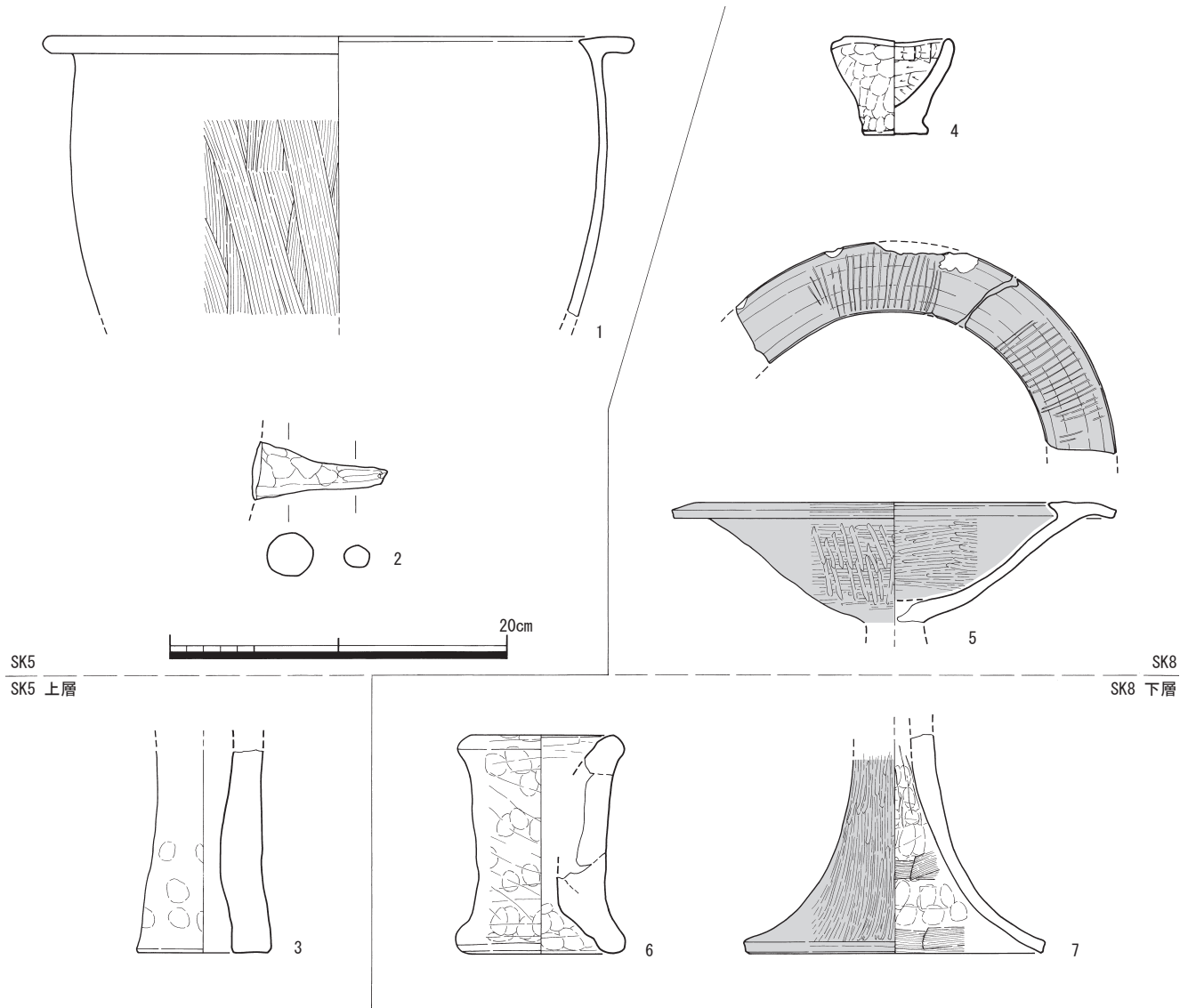
- 1 Hue10YR2/1 黒色砂質土
- 2 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (Hue10YR7/6 明黄褐色粘土を含む)
- 3 Hue10YR3/1 黒褐色砂質土
- 4 Hue10YR3/1 黒褐色粘質土 (Hue10YR7/3 明黄褐色粘土ブロックを少量含む)
- 5 Hue10YR3/1 黒褐色粘質土 (Hue10YR5/7 にぶい黄褐色粘土ブロックを含む)
- 6 Hue10YR3/1 黒褐色粘質土 (Hue10YR5/7 にぶい黄褐色粘土ブロックを少量含む)



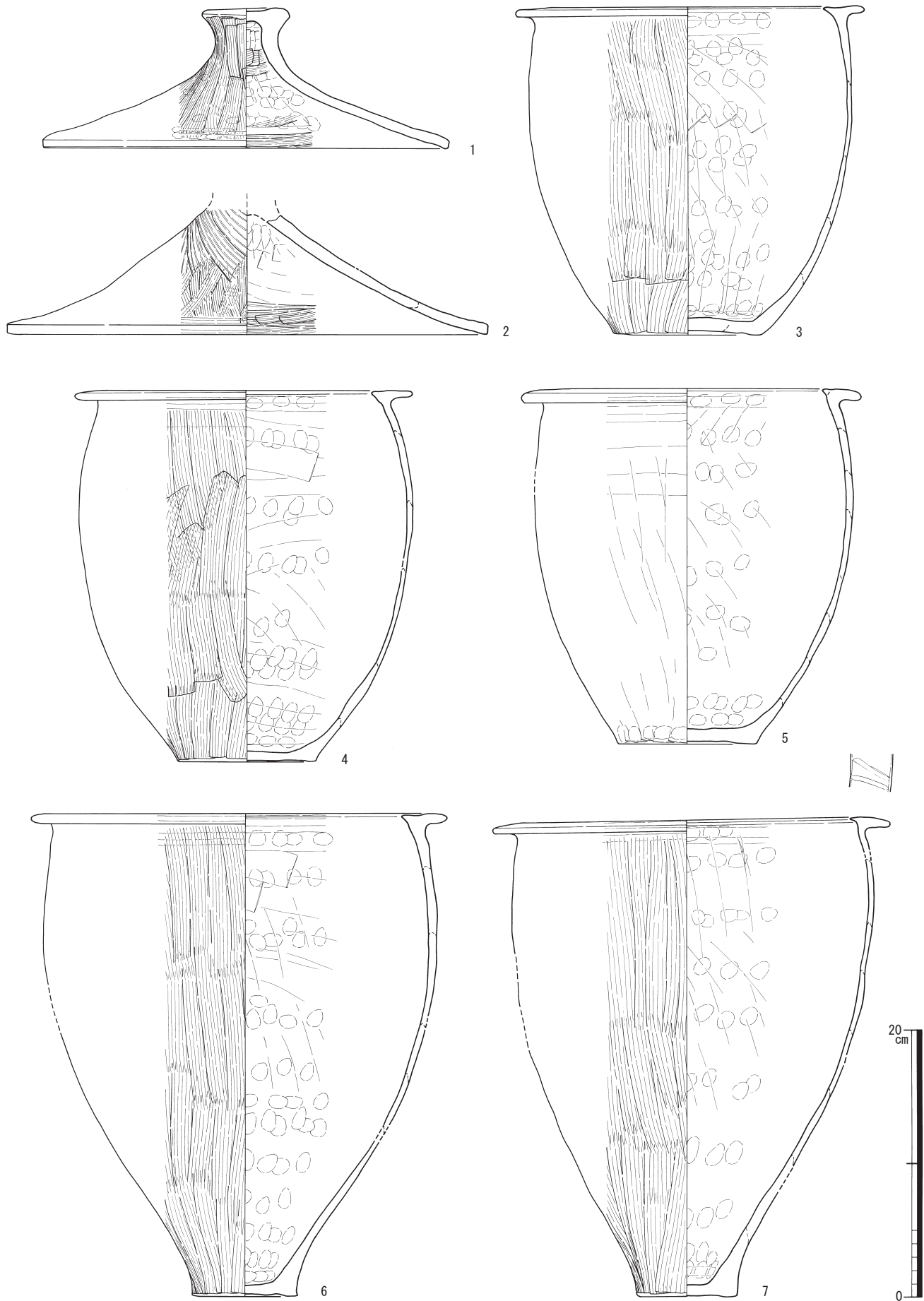
第 18 図 3・5～7 号土坑実測図 (S=1/60)



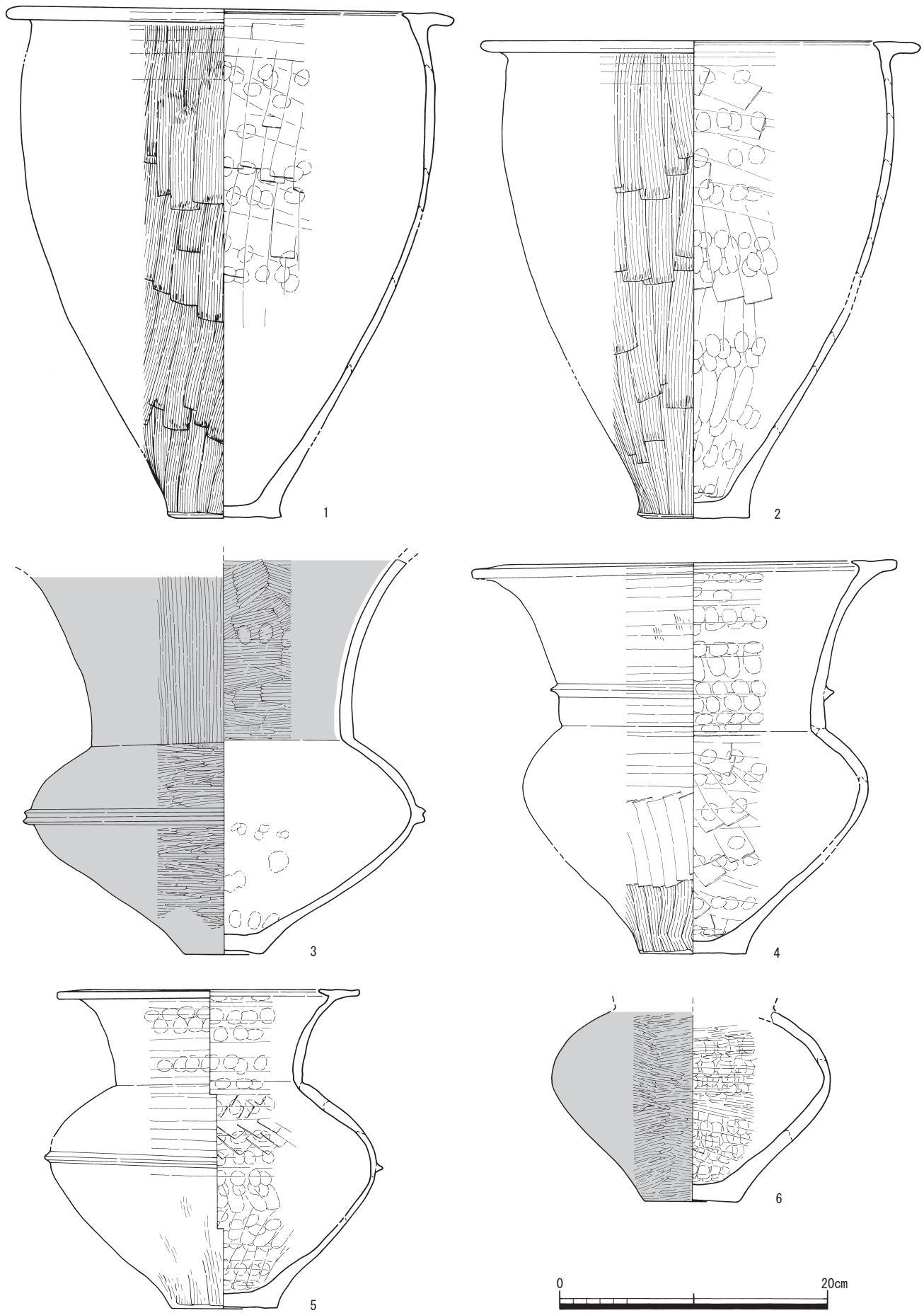
第19図 1・2・4号土坑出土土器実測図(7・8はS=1/5、他はS=1/4)



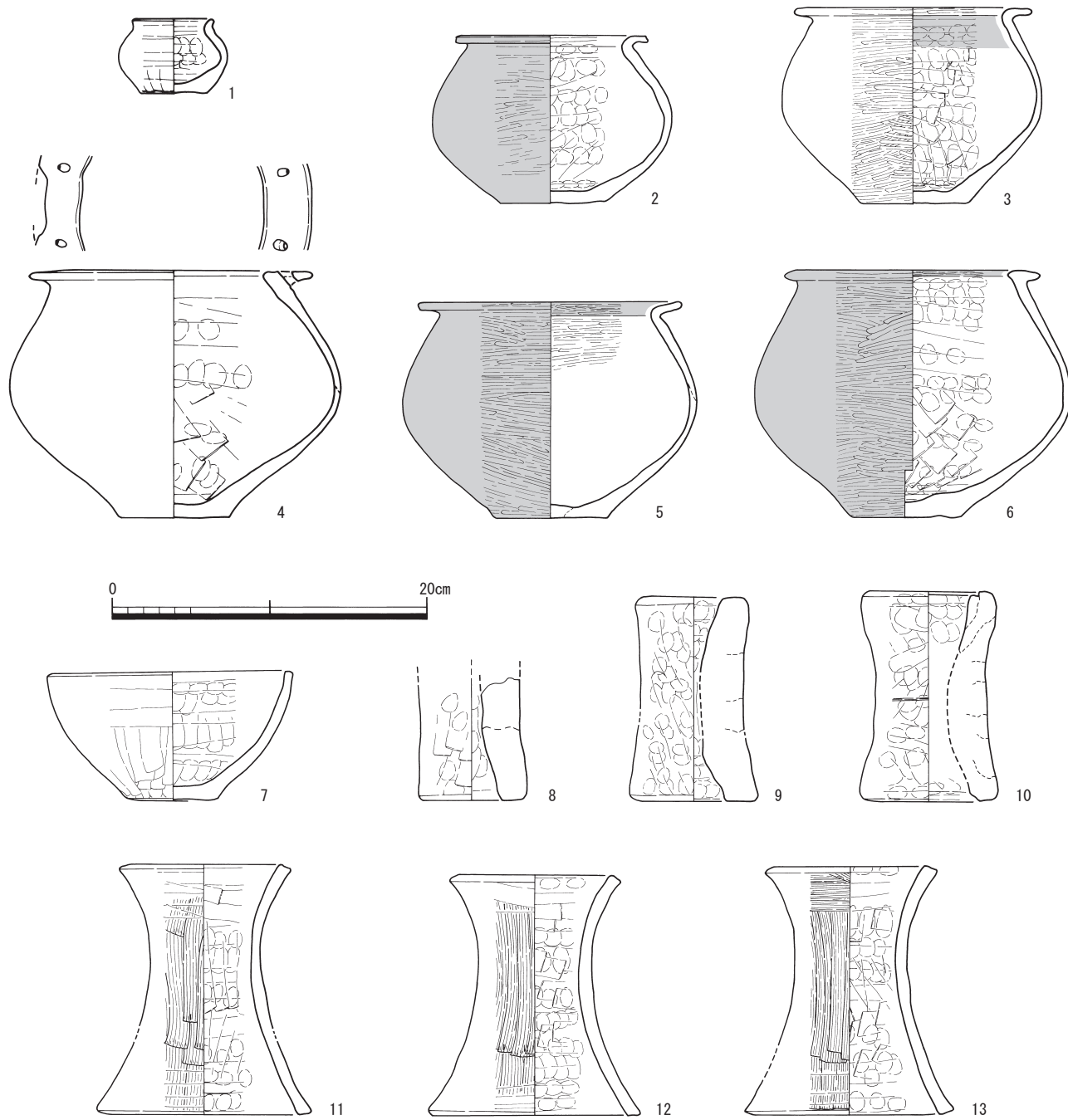
第 20 图 5·8 号土坑出土土器实测图 (S=1/4)



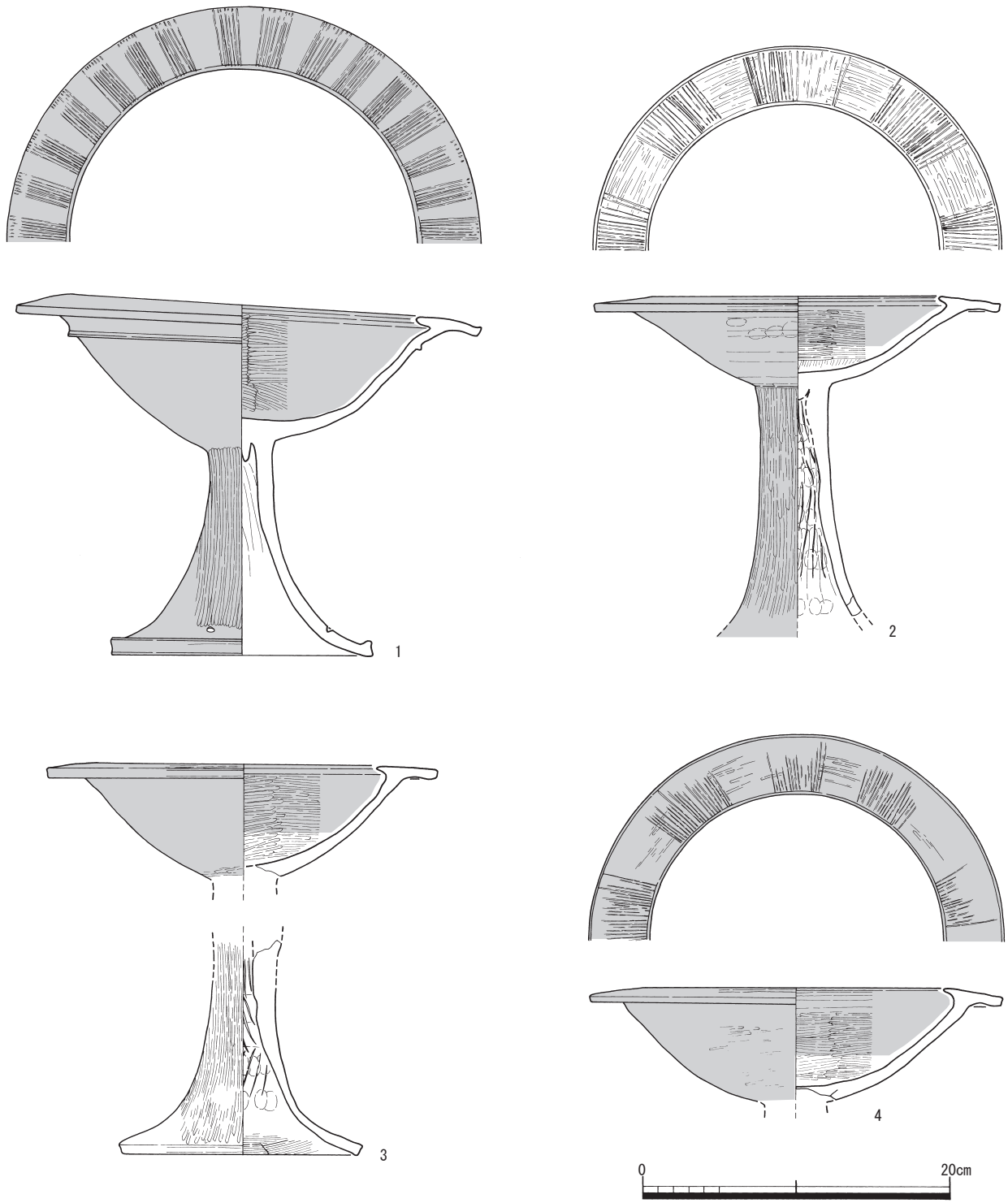
第 21 图 7 号土坑出土土器实测图① (S=1/4)



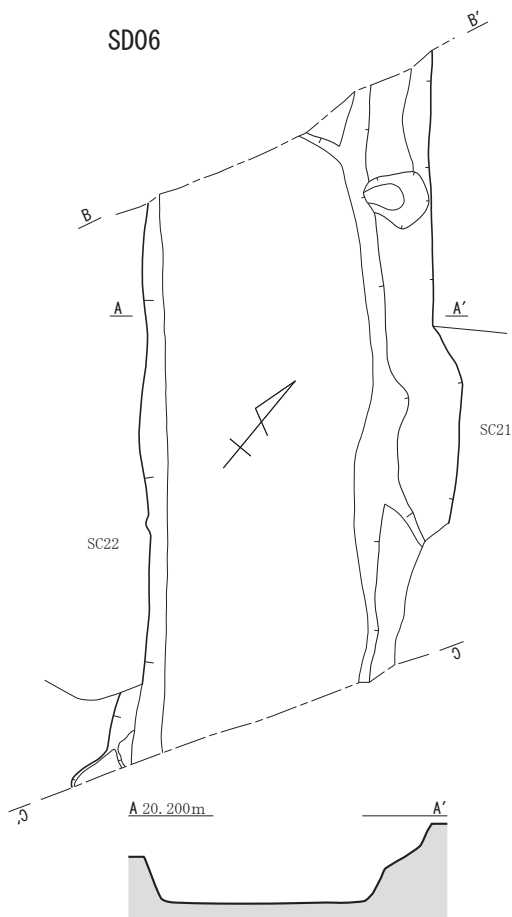
第 22 图 7 号土坑出土土器实测图② (S=1/4)



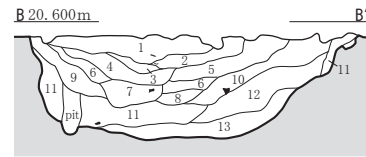
第 23 图 7 号土坑出土土器实测图③ (S=1/4)



第 24 图 7 号土坑出土土器实测图④ (S=1/4)

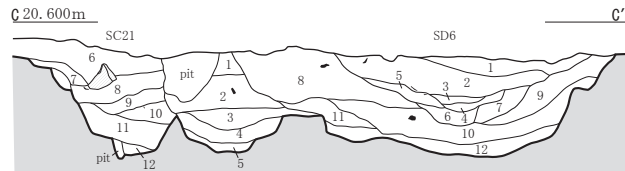


〈西壁〉



- 1 Hue10YR2/1 黒色土
- 2 Hue10YR2/1 黒色土 (Hue10YR5/4 にぶい黄褐色を少量含む)
- 3 Hue10YR2/1 黒色土 (10YR5/4 にぶい黄褐色を中量含む)
- 4 Hue10YR2/1 黒色土 (しまりあり)
- 5 Hue10YR2/1 黒色土 (しまらない)
- 6 Hue10YR2/1 黒色土
- 7 明黄褐色粘土粒含む
- 8 明黄褐色粘土粒含む
- 9 Hue10YR2/3 黒褐色粘土
- 10 Hue10YR2/3 黒褐色粘土 (礫を含む)
- 11 Hue10YR2/3 黒褐色粘土 (焼土を少量含む)
- 12 Hue10YR2/1 黒色粘質土
- 13 Hue10YR4/2 黄褐色粘質土を含む

〈東壁〉



【SC21 下層】

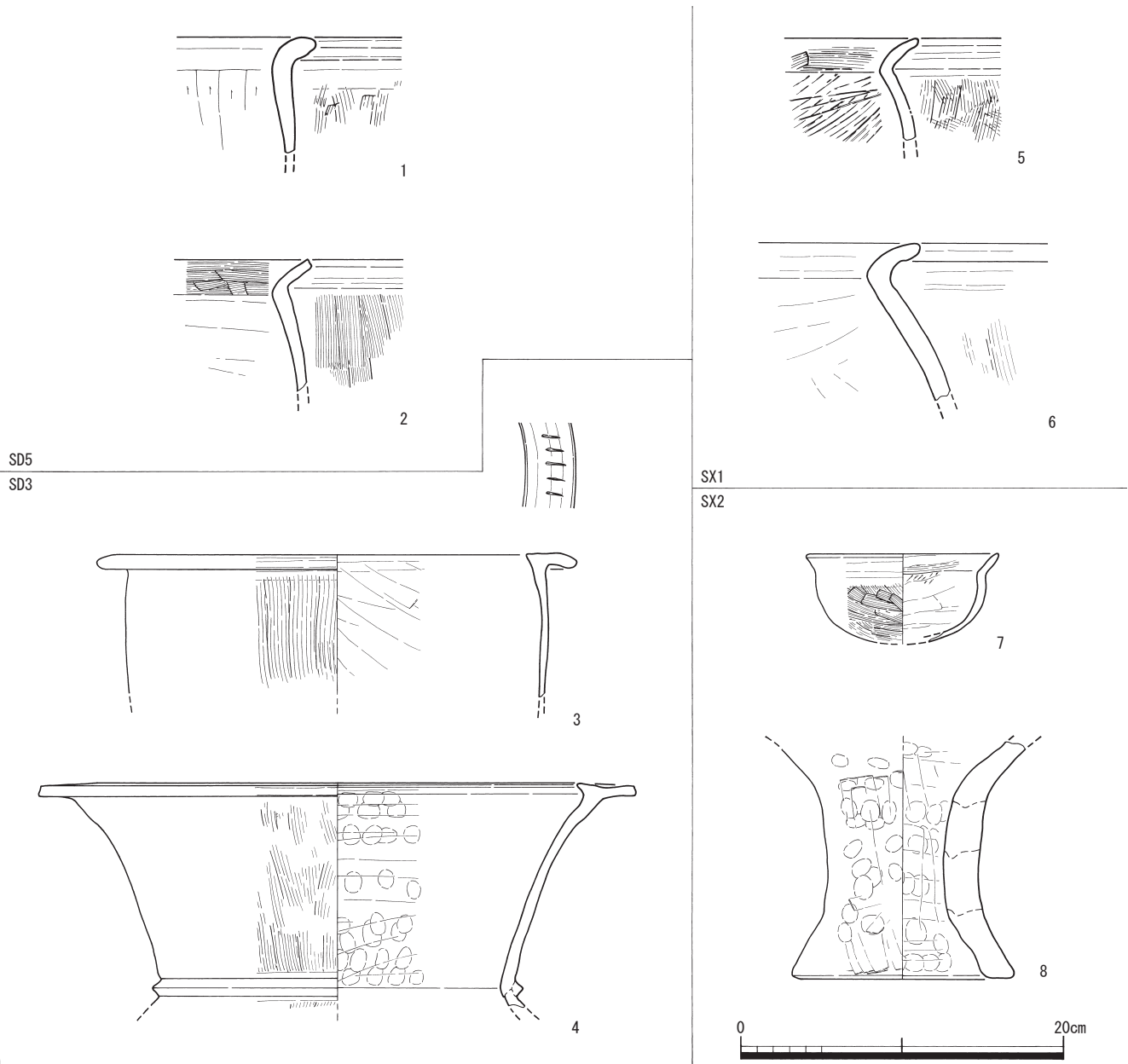
- 1 Hue10YR2/1 黒色砂質土
- 2 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (しまりあり)
- 3 Hue10YR2/3 黒褐色砂質土
- 4 Hue10YR2/3 黒褐色粘質土
- 5 Hue10YR2/1 黒色粘質土 (明黄褐色粘土ブロックを含む)
- 6 Hue10YR2/1 黒色砂質土
- 7 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (ややしまる)
- 8 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (礫を含む)
- 9 Hue10YR3/2 黒褐色砂質土
- 10 Hue10YR3/2 黒褐色粘質土
- 11 Hue10YR2/1 黒色粘質土
- 12 Hue10YR2/1 黒色粘質土 (明黄褐色粘土ブロックを含む)

【SD06】

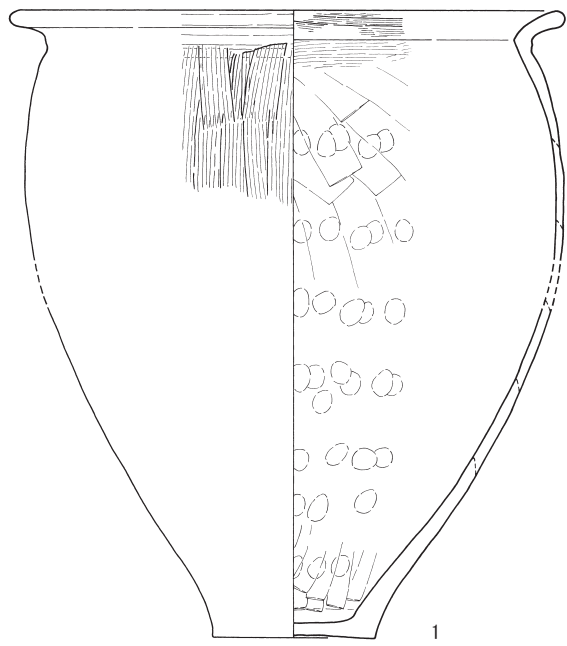
- 1 Hue10YR2/1 黒色砂質土
- 2 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (しまりあり)
- 3 Hue10YR2/1 黒色砂質土 (にぶい黄褐色粘土を少量含む)
- 4 Hue10YR2/1 黒色粘質土 (にぶい黄褐色粘土を含む)
- 5 Hue10YR2/3 黒褐色粘質土
- 6 Hue10YR2/3 黒褐色粘質土 (しまりあり)
- 7 Hue10YR2/3 黒褐色粘質土 (にぶい黄褐色粘土を含む)
- 8 Hue10YR 黒色粘質土
- 9 Hue10YR 黒色粘質土 (しまりあり)
- 10 Hue10YR 黒色粘質土 (砂を含む)
- 11 Hue10YR 黒色粘質土 (にぶい黄褐色粘土を含む)
- 12 Hue10YR 黒色粘質土 (にぶい黄褐色粘土を多く含む)



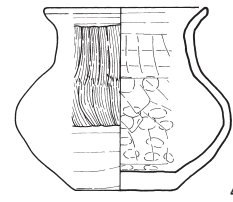
第 25 図 6 号溝状遺構実測図 (S=1/80)



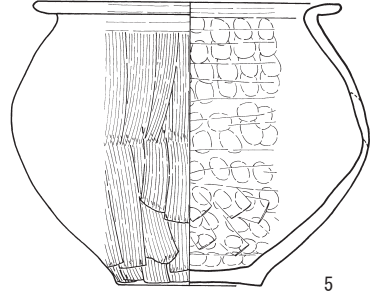
第26図 3・5号溝状遺構・1・2号不明遺構出土土器実測図 (S=1/4)



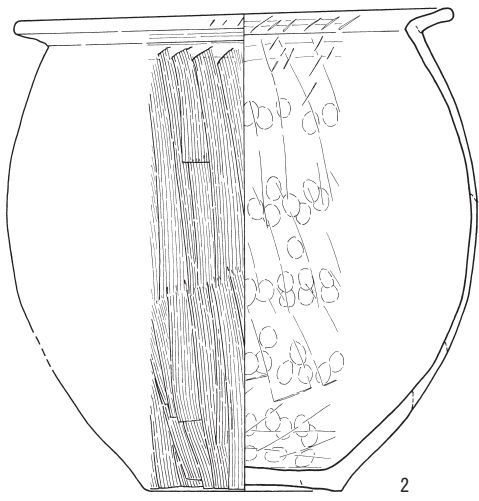
1



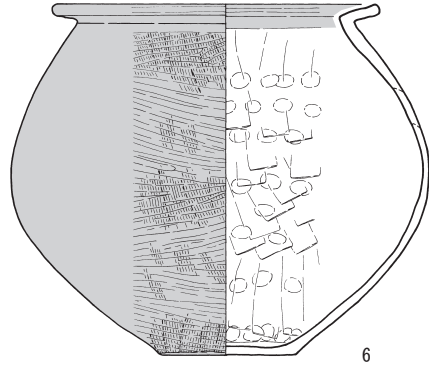
4



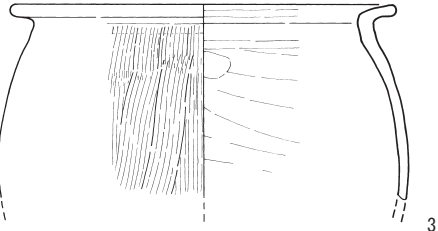
5



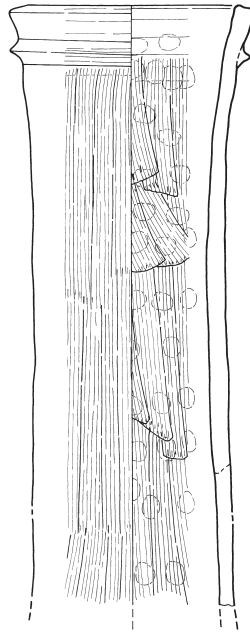
2



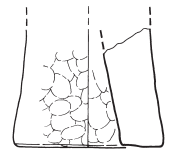
6



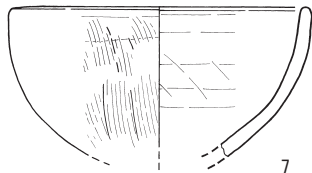
3



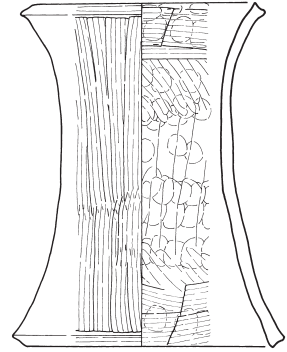
8



9



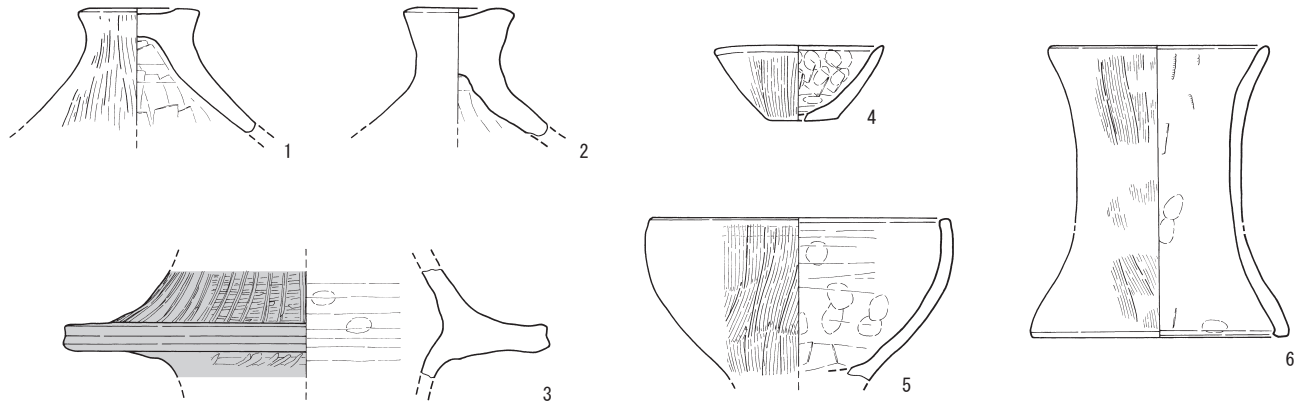
7



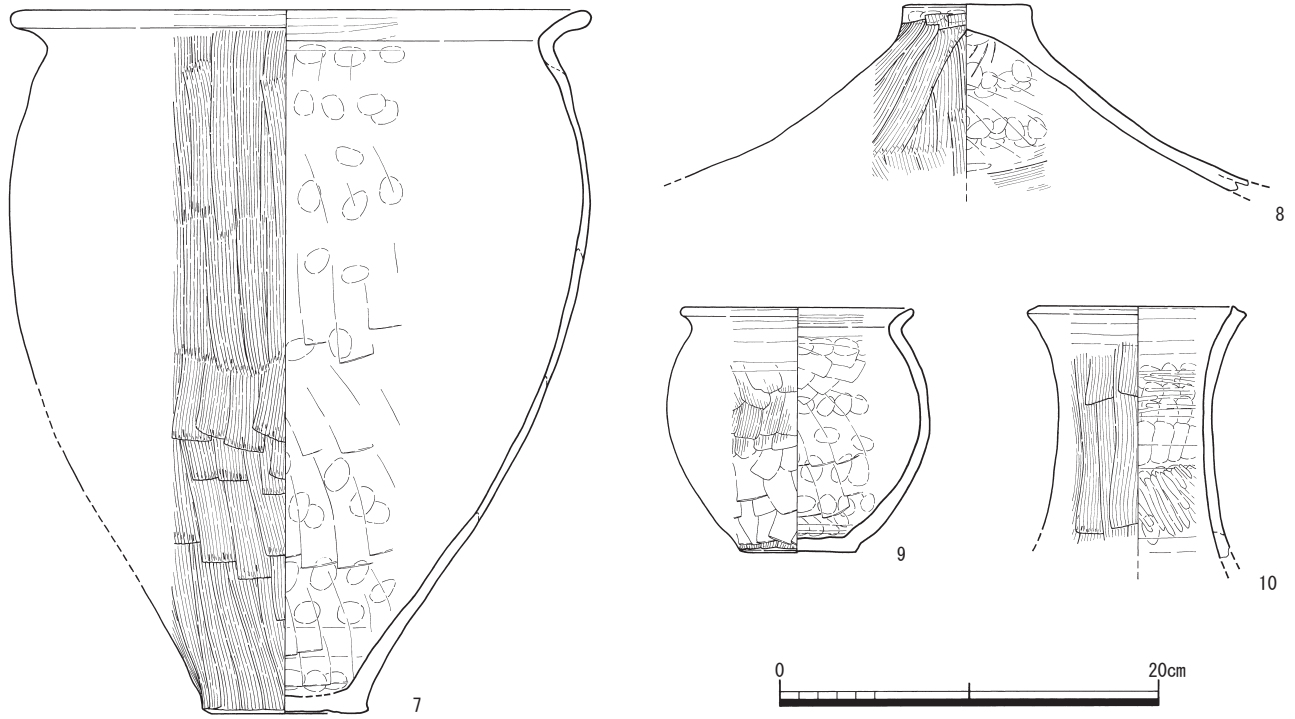
10



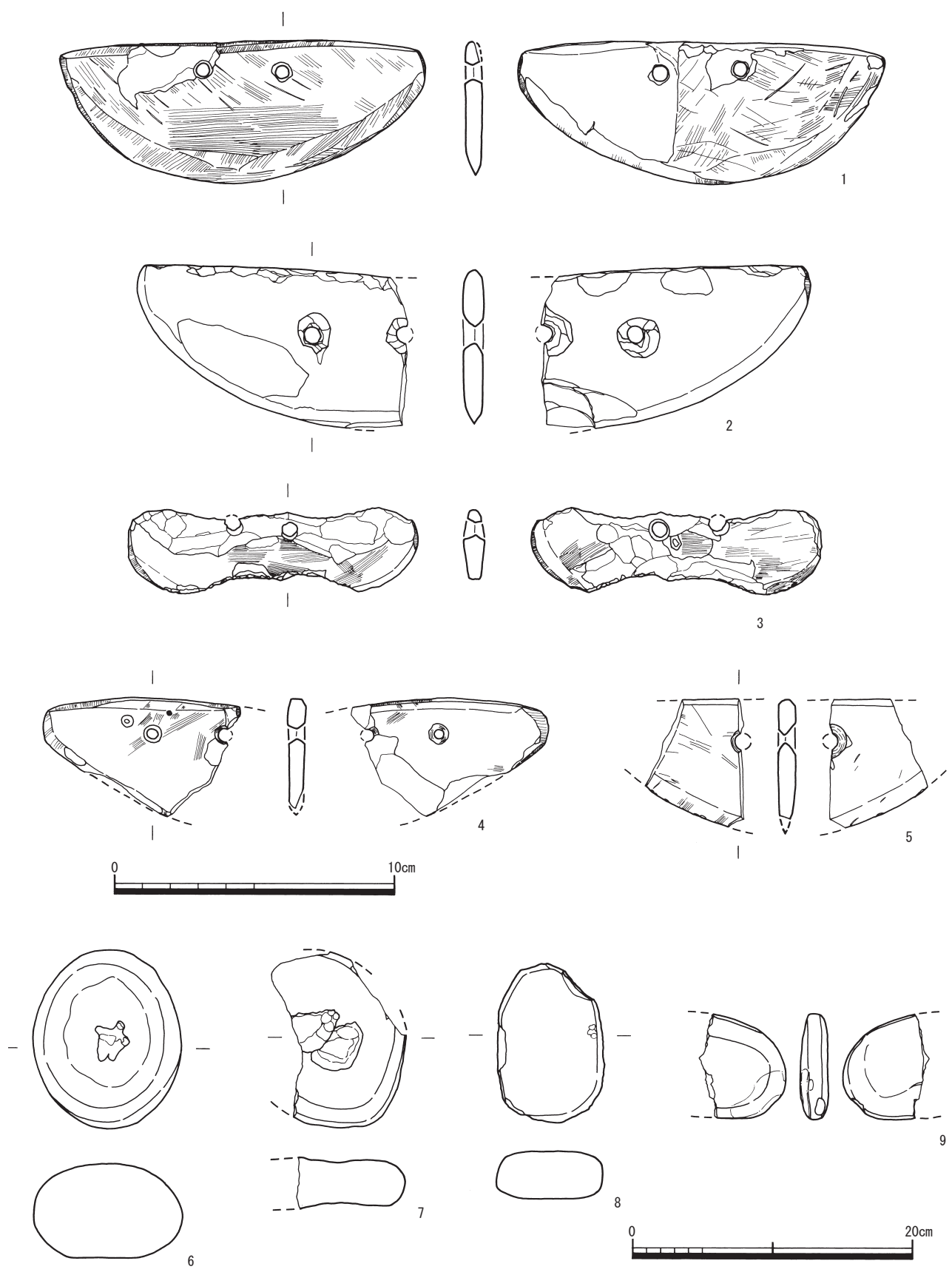
第 27 图 6 号溝状遺構出土土器実測図① (S=1/4)



SD6 下層
SD6



第28図 6号溝状遺構出土土器実測図② (S=1/4)



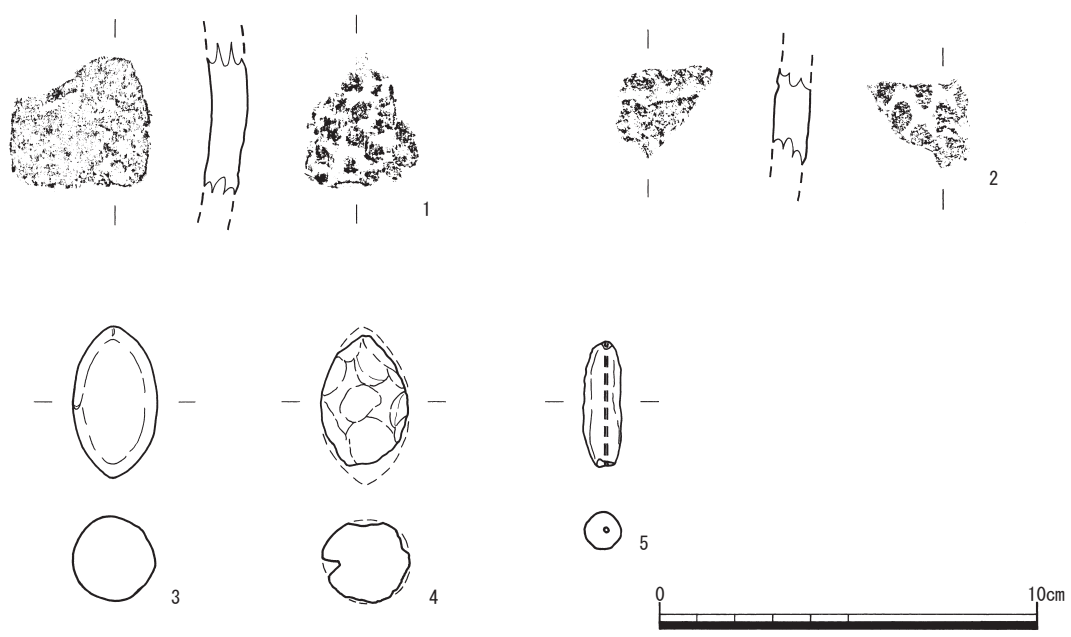
第29図 出土石器実測図① (1～5はS=1/2、6～9はS=1/4)



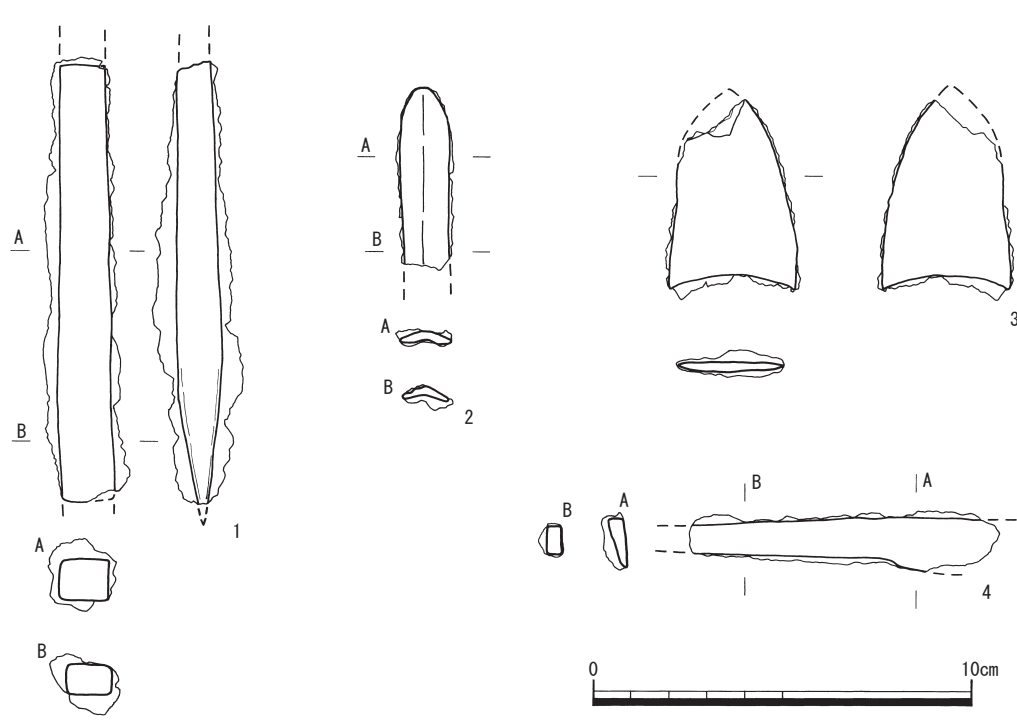
第30图 出土石器实测图② (S=1/2)



第31图 出土石器实测图③ (S=1/4)



第 32 図 出土縄文土器・土製品実測図 (S=1/2)



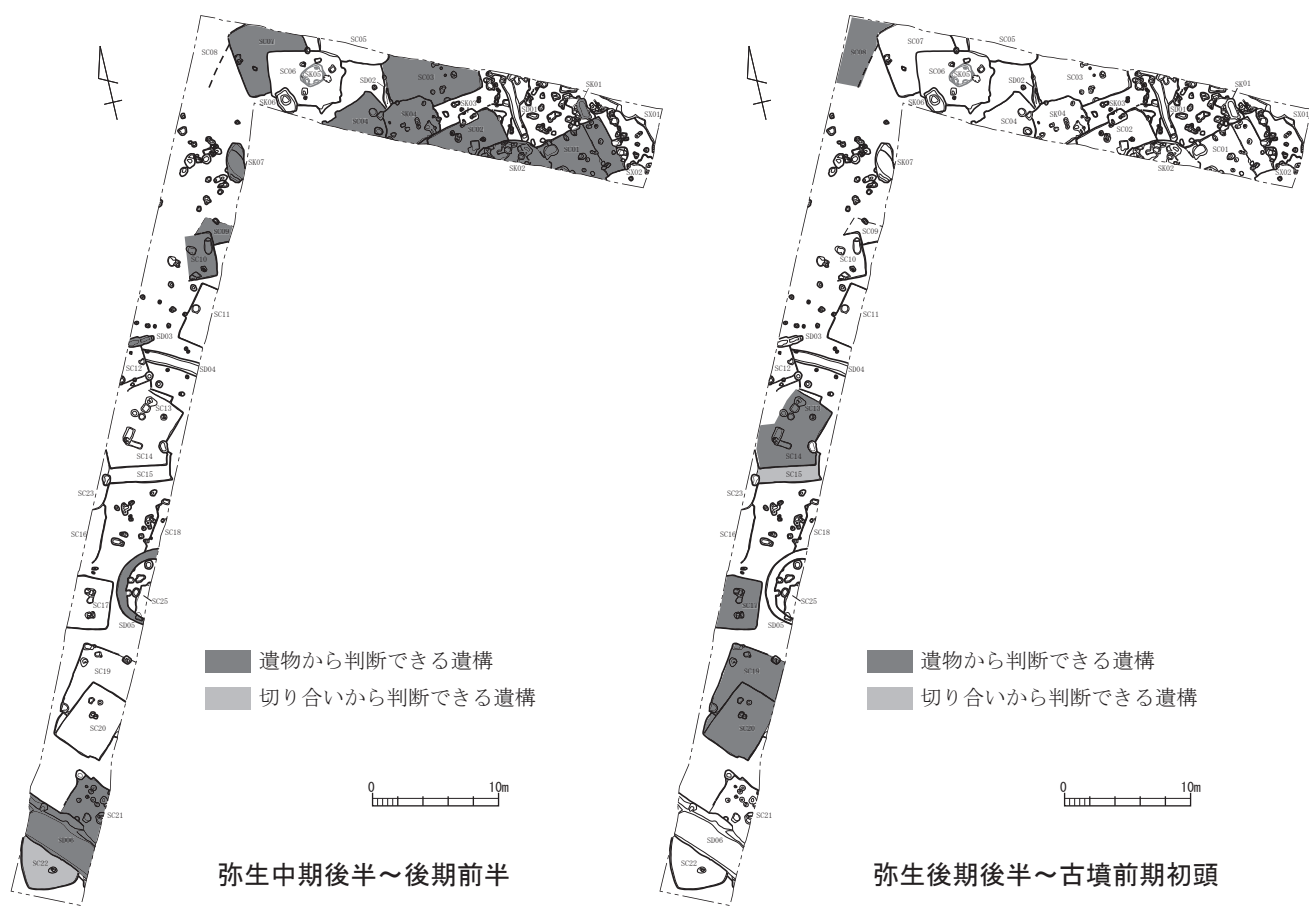
第 33 図 出土鉄製品実測図 (S=1/2)

第4章 まとめ

横隈上ノ原上遺跡5では、弥生時代中期中頃に5号土坑が出現し、中期後半以降になると多くの遺構が確認できる。中心となるのは、調査区北部の住居跡7軒（1・2・3・4・7・9・10号住居跡）と大型の土坑2基（2・4号土坑）、及び祭祀土坑1基（7号土坑）で、調査区南部には周溝状遺構（5号溝状遺構）も存在する。住居跡の多くが長軸を略東西方向に取り、遺構の切り合いは激しい。出土遺物からも3～4段階に分けることができ、後期前半まで比較的安定した集落活動が展開されたものと考えられる。

この時期の注目される遺構に、調査区南端付近で検出した6号溝状遺構がある。これは、3次調査で確認された1号溝状遺構と同一のものと考えられ、長さ75m以上に渡り、この集落のある低台地を区画するものと考えられる。3次調査においても、今回の調査でも掘り直しが確認されており、住居跡群と同様に、比較的長期間使用された区画溝であった。なお、3次調査では、この溝の南側では、同時期の遺構は確認されていない。また、今回の調査区から道路を挟んだ南側で実施した6次調査（令和3年度実施）でも、遺構がほとんど確認されていない。つまり、この大型の溝は、弥生時代中期後半から後期前半に展開した集落の南限を示すものである可能性が指摘される。

弥生時代後期中頃には集落の空白期が生じるものの、後期後半になると再び集落活動が活発化する。この時期の住居跡は調査区中央から南部を中心に分布し（8・12・14・15・17・19・20号住居跡）、主軸方位を略北東－南西方向に取る。当集落の最後の遺構となるのは20号住居跡で、古墳時代前期初頭の時期が考えられる。



第34図 横隈上ノ原上遺跡5遺構変遷図 (S=1/600)

表1 横隈上ノ原上遺跡5 出土土器観察表

法量=口・口径 高・器高 底・底径 脚・脚径 裾・裾径 最脚・脚部最大径 天・天井径 頂・頂径 受・受部径

出土遺構	挿図番号	図版番号	器種	法量cm*(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	
SC1		11-1	8	弥・甕	口:17.7 底:6.6 高:23.0	内:浅黄橙色 外:上:浅黄橙色 外:下:黒褐色	石英・金雲母・角閃石を含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外・胴ハケ 外・底ナテ	胴下半2箇所剥離
		2	8	弥・甕	口:16.2 底:7.8 高:11.5	内:浅黄橙色 外:黄橙色	石英・金雲母・角閃石を含む	良	内ナテ 口ナテ 外ハケ目 底ナテ	底部に植物痕
		3	8	弥・鉢	口:11.9 底:4.8 高:6.5	内:黒色 外:浅黄橙色	金雲母を多く含む 石英・長石・角閃石を含む	良	内ナテ 外ナテ	
		4	8	弥・杯	口:6.7 底:3.4 高:6.3	内:黄橙色 外:浅黄橙色	石英・角閃石・金雲母を多く含む	良	内ナテ 口ナテ 外:タテハケ・ヨコハケ	外面底部～胴下半に黒斑
		5	8	弥・器台	口:9.9 底:10.0 高:16.0	内:橙色 外:橙色	石英・金雲母・石閃石を含む	良	内ナテ 外・上ナテ 外・下ハケ目後ナテ 消し	
SC2		11-7		弥・甕	口:(37.8)	内:浅黄橙色 外:にぶい黄褐色	粗い 3mm大の石英、黒雲母、赤色粒子を含む	良	内ナテ 口～突帯ヨコナテ 外・胴ハケ目	
		8		弥・甕	底:10.0	内:淡黄色 外:浅黄褐色	粗い 2mm大の石英、長石、黒雲母を含む	良	内ナテ 外ハケ目 底ナテ	
		9		弥・鉢	口:17.6 底:7.0 高:9.0	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色	非常に粗い 3～4mm大の石英、長石を非常に多く含む	やや不良	内ナテ 口ヨコナテ 外・下ハケ目後ヨコナテ 底ナテ	
		10		弥・甕	口:16.7 底:7.2 高:16.3	内:黄褐色 外:黄褐色	3～4mm大の石英を含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目 底ナテ	外面口縁～頭部の一部に黒斑 内面口縁～頭部の一部にコケ
SC3		12-1	8	弥・甕	口:22.0 底:9.4 高:28.8	内:黄橙～褐灰～黒褐色 外:黒褐色	良 2～3mm大の石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目 底ナテ	外面にスス
		2		弥・甕	口:(28.2)	内:褐灰色 外:灰褐色	石英・金雲母を含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目	外面の一部にコケ
		3		弥・甕	底:7.6	内:にぶい黄褐色 外:黄褐色	石英・金雲母・長石を含む	良	内ナテ 外ハケ目 底ナテ	2の口縁部と同一個体か
		4	8	弥・器台	受:6.4 底:9.0 高:6.9	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色	石英・金雲母・長石を含む	良	受・底ハケ目後ヨコナテ 外ハケ目(一部ナテ 消し)	内面にスス
		5	8	弥・器台	受:12.2 底:13.7 高:16.2	内:灰白色 外:淡黄色	石英・金雲母・長石を含む	良	内ハケ目後ナテ 消し 外ハケ目	内面の一部にコケ
		6		弥・壺	口:(9.8)	内:灰白色 外:淡黄色	2.5mm大の石英、黒雲母、長石を含む	良	内ナテ 口ヨコナテ	
		7		弥・甕	底:9.2	内:浅黄色 外:淡黄～黒色	2mm大の石英、1mm以下の長石、黒色粒子を含む	良	内ナテ 外ナテ 底ナテ	底部に黒斑
SC4		11-11		弥・甕	口:(22.4)	内:灰白～浅黄褐色 外:大部分が黒色、両端が灰白色	石英・金雲母、角閃石を含む	やや不良	口ヨコナテ 内・胴ハケ目	外面全体に黒斑
		12		弥・甕	底:(9.8)	内:灰白色 外:褐灰～黒褐色	全体的に粗い 石英、角閃石、赤色粒子を含む	やや良	内ハケ～ナテ 外ハケ 底ナテ	
SC5		11-6		弥・甕	底:(8.2)	内:褐灰色 外:橙色	1～4mm大の長石、石英を含む	良	内ナテ 外ハケ 底ナテ	
SC7		11-13		弥・甕	口:(25.2)	内:橙色 外:にぶい黄褐色	石英・金雲母を多く含む	良	口ナテ 外・胴ハケ(部分的にタテの痕跡が残る) 内・胴ハケ	外面に黒斑
		14		弥・壺	口:12.0 高:14.9	内:黄褐色 外:浅黄褐色	石英、角閃石、金雲母を含む	良	内・胴ハケ(タテの痕跡あり) 口ナテ 外・胴・上ハケ目 外・胴・下ナテ・ケスリ 底ナテ	外面の一部に黒斑 内外面の一部にスス
		P1	8	弥・壺	底:7.0	内:灰白色 外:淡黄色	金雲母、石英、角閃石を含む	良	内ナテ 外ハケ目 底ナテ	外面に黒斑
SC8	床	12-8		弥・高杯	口:(19.6)	内:橙～褐色 外:橙～褐色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	口ヨコナテ 体・内外ヘラカキ 脚・内:未調整 脚・外ヨコナテ	
		9		弥・甕	底:6.5	内:にぶい黄褐色 外:にぶい橙～浅黄褐色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ハケ目後ナテ 外ヘラカスリ後ハケ目 底ナテ	底部に植物圧痕
		10		弥・鉢	口:(6.1) 最脚:(7.0)	内:淡黄色 外:灰白～灰色	やや粗 径1mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・体ハケ目	体部内面下位に黒色付着物 体部外面に黒色顔料塗付
SC9	P1	12-11		弥・甕		内:灰白色～灰白色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	口ヨコナテ	
SC10	P4	12-12		弥・甕	口:(23.7)	内:橙色 外:にぶい橙	やや粗	良	内:板状工具ナテ後ハケ目 口ヨコナテ 外ハケ目	口縁部内面・体部内面にコケ 頭部外面～体部外面上位にスス
		13	8	弥・鉢	口:(16.8) 底:(5.4) 高:10.4	内:浅黄橙～灰黄褐色 外:浅黄橙～にぶい黄褐色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ヘラカスリ 口ヨコナテ 外ヘラカスリ後ナテ	体部外面に黒斑 底部外面に種子圧痕か?
		P1	8	弥・壺	口:(8.2) 底:5.4 高:6.5 最脚:11.1	内:にぶい橙～にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ナテ、上半はその後板状工具ナテ後ナテ 口ヨコナテ 外ヨコナテ、上半はその後ハケ目 底ヘラカスリ	
SC13		13-1		弥・甕	口:(14.2) 最脚:(17.4)	内:にぶい黄褐色 外:浅黄橙～にぶい黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:板状工具ナテ後ナテ 口ヨコナテ 外:板状工具ナテ後ハケ目	口縁部外面～体部外面中に黒斑
		2		弥・甕		内:浅黄褐色 外:浅黄橙～灰白色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ハケ目 口・外ヨコナテ 外ハケ目	SC14埋土出土片と接合 口縁部外面～体部外面上位に黒斑 体部外面中にスス
		3		弥・高杯	口:(35.4)	内:にぶい橙 外:にぶい橙～浅黄褐色	精良 径1mm以下の石英、長石、雲母等をわずかに含む	良	内ヨコナテ後ハケ目後暗文 外ハケ目後暗文	4と同一個体
		4		弥・高杯	裾:(18.4)	内:にぶい橙 外:浅黄橙～にぶい橙	精良 径1mm以下の石英、長石、雲母等をわずかに含む	良	内ハケ目 脚裾・端ヨコナテ 外ハケ目後暗文	脚部中に穿孔一か所(内側から外面に穿孔) 外面下半～裾部端部に黒斑
		P3	8	弥・鉢	口:(13.5) 高:5.5	内:橙～浅黄褐色 外:浅黄褐色	粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ナテ 外ナテ後ハケ目後ナテ 底ナテ	体部外面中に黒斑
SC14		13-6		弥・甕		内:灰白～浅黄褐色 外:灰白色	やや粗 径1mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ハケ目 口ヨコナテ 外ハケ目後ヨコナテ	口縁部端部に黒斑 外面にスス
		7		弥・甕		内:にぶい黄橙～灰黄褐色 外:灰褐～灰黄褐色	やや粗 径1mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ハケ目 口・端ヨコナテ 外ハケ目	口縁部内面にコケ 口縁部外部にスス

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量cm・ (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考			
SC14	P1	13-8	弥・壺	口:(14.9)	内:浅黄橙色 外:浅黄橙～にぶい黄 橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:端ヨコナテ 頸:外:工 具ナテ 後:ハケ目後ナテ 外:タキ後ハケ目	口唇部に刻目			
			弥・鉢		内:黄灰色 外:灰黄褐～黄灰色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナテ 口:ヨコナテ 外:ハケ目 底:手持ちヘラスリ後ハケ目				
SC15		13-10	弥・支脚	底:11.5 天:5.9	内:にぶい橙～灰黄褐 色 外:橙～灰黄褐色	やや粗 径3mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヨコナテ 天:井・つまみ出しナテ 外:タキ後ハケ目 底:ヨコナテ	内面の約半分とつまみ出し部に黒 斑			
			弥・器台	底:15.2 高:20.1 受:(14.2)	内:にぶい黄橙～浅黄 橙色 外:浅黄橙～橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目・絞り痕 受:底:ヨコナテ 外:タキ後ハケ目				
			弥・器台	底:(15.4) 高:21.4 受:14.0	内:にぶい黄橙～灰黄 色 外:灰白色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:上:ハケ目 内:中:ナテ・絞り痕 内:下:工具ナテ、ナテ 受:底:ヨコナテ 外:タキ後ハケ目				
SC16	P1	13-13	弥・鉢	口:(13.8) 底:5.6 高:7.7	内:灰～黄灰色	粗 径3mm以下の石英、長石、 雲母等を多く含む	良	内:ハケ目後工具ナテ 口:ヨコナテ 外: ヘラスリ後ナテ 底:ナテ				
SC17		14-1	弥・壺	口:35.6	内:浅黄橙～橙色 外:浅黄橙～橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等を多く含む	良	内:ハケ目 口:端ヨコナテ 後:タキ施文 口:外:タキ後工具ナテ 後:ヨコナテ 体: 外:ヘラスリ後タキ 突帯:タキ施文	SC19表採・SC20埋土出土土器と 接合 外面に黒斑2か所 外面にスス			
			床面	2	9	弥・壺	口:(18.5) 高:30.1 最胴:(22.4)	内:にぶい黄橙色 外:浅黄～にぶい黄橙 色	粗 径2mm以下の石英、長石、 雲母等を多く含む	良	内:ハケ目 口:外:タキ後ハケ目 外: 上:タキ 外:下:タキ後ヘラスリ後ハケ 目	内面下位～底部にコケ 外面にスス
			床面	3	9	弥・壺	口:(20.8) 高:26.2	内:にぶい黄橙～灰黄 褐色 外:灰黄褐～にぶい橙 色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:端ヨコナテ 外:上:ハ ケ目 外:下:ヘラスリ後ハケ目	底部内面にコケ 外面にスス 外面下半は二次焼成で器表剥離
			床面	4	9	弥・壺	口:23.4 器台:30.9	内:灰黄褐～灰黄褐色 外:褐灰～灰褐色	やや粗 径3mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:端ヨコナテ 外:上:ハ ケ目 外:下:ヘラスリ後ハケ目	内面下位～底部にコケ 外面にスス
				5	9	弥・壺	口:20.0 高:23.1	内:にぶい黄橙～褐灰 色 外:にぶい橙～にぶい 橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:端ヨコナテ 外:上:ハ ケ目 外:下:ヘラスリ	内面下位～底部にコケ 外面口縁部～体部中にスス
				6	9	弥・壺	口:12.5 高:24.5 最胴:22.0	内:にぶい黄橙～橙色 外:にぶい橙～浅黄橙 色	やや粗 径4mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:端ヨコナテ 口:外:ヨコ ナテ後ハケ目 外:下半にヘラスリ後上 半は:タキ、その後ハケ目、最後にヘ ラスリ	外面口縁部～上位・外面上位～下 位に黒斑
				15-1	9	弥・壺	口:11.1 高:22.8 最胴:23.4	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙～灰黄色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:ヨコナテ後ハケ目 外:上: ハケ目 外:下:工具ナテ後ハケ目	外面中位～下位に黒斑 外面下半にスス
				2		弥・短頸壺	口:(12.6) 最胴:(16.4)	内:にぶい橙色 外:にぶい黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:ヨコナテ 外:中～下: ヘラスリ後ハケ目	外面中位～下位に薄い黒斑
				3	9	弥・短頸壺	口:(12.6) 最胴:(18.5)	内:にぶい黄橙色 外:橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:下:工具ナテ 内:上:ヨコナテ 口: ハケ目後ヨコナテ 外:ヘラスリ後ハケ目	外面口縁部に黒斑
				4	9	弥・短頸壺	口:(13.1) 高:12.0 最胴:(15.6)	内:にぶい橙色 外:にぶい橙～にぶい 黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:ヨコナテ 外:上:ハ ケ目 外:中～下:ヘラスリ後ヘラスリハ ケ目・ナテ	外面底部に黒斑
				5	9	弥・短頸壺	口:(17.0) 最胴:19.0	内:にぶい黄橙色 外:浅黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ後ヘラスリ 口:内:ハケ目後 暗文 口:端:ヨコナテ 外:ハケ目	外面に黒斑
				6		弥・台付鉢 か?		内:浅黄橙～にぶい黄 橙色 外:にぶい黄褐色	やや粗 径3mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	鉢:内:ヘラスリ後ヘラスリ 鉢:外: ヘラスリ後ハケ目 脚:内:ハケ目 脚: 端:ヨコナテ 脚:外:ヨコナテ後ハケ目	外面鉢部下位～脚部上半に黒斑
				7		弥・高杯	口:(31.0)	内:にぶい橙～にぶい 黄褐色 外:にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長 石、雲母等を少し含む	良	内:ハケ目後暗文 口:端:ヨコナテ 外: ハケ目後暗文	スリップ塗布
				8	9	弥・高杯	口:(23.5)	内:橙色 外:明黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	杯:内:ハケ目後暗文 口:端:ヨコナテ 杯:外:ハケ目 内:上:ヨコナテ 脚: 内:下:ハケ目 脚:外:ヘラスリ後ハケ目	脚部中位に外から内へ穿孔4か所 外面～脚部内面に薄い黒斑
SC19		13-14	弥・壺	口:(14.8)	内:にぶい褐色 外:にぶい橙～にぶい 褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラスリ 口:ヨコナテ後ハケ目 外: ハケ目	外面胴部中に黒斑 外面口縁部～胴部上位にスス			
			弥・壺	口:(11.7) 最胴:(16.0)	内:橙～明褐色 外:明赤褐～にぶい橙 色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラスリ後ナテ 口:ヨコナテ 外: ハケ目	内面口縁部～胴部に黒斑 口縁部端部～外面胴部にスス			
SC20		16-1	土師器・壺	口:15.7 高:21.6 最胴:19.3	内:にぶい橙色 外:にぶい橙～灰黄褐 色	やや粗 径4mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラスリ 口:ヨコナテ 外:上:タ キ 外:下:ハケ目後タキ様工具ナテ	口縁部端部～外面底部にスス			
			土師器・壺	口:(16.4) 最胴:(21.0)	内:にぶい橙～にぶい 黄褐色 外:にぶい褐～灰褐色	やや粗 径5mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:下:ハケ目後ヘラスリ 内:上:ハ ケ目 口:内:ハケ目後ヨコナテ 外: タキ後ハケ目	外面口縁部～体部にスス			
			土師器・壺	口:(17.8)	内:にぶい黄橙～灰黄 色 外:にぶい黄褐色	やや粗 径8mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目後ヘラスリ 口:ヨコナテ 外: タキ後ハケ目	外面上位に黒斑 外面口縁部・胴部上位にスス			
			土師器・壺	口:(17.5) 最胴:24.8	内:にぶい黄褐色 外:にぶい橙～にぶい 黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラスリ後一部に工具ナテ 頸: 内:横位のヘラスリ後ナテ 口:ヨコナテ 口:外:部分的にタキ 外:タキ後ハ ケ目	内面に黒斑 外面胴部にスス			
			土師器・壺	口:18.2 最胴:24.7	内:にぶい黄褐～にぶ い褐色 外:にぶい橙～にぶい 黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:下:斜位のヘラスリ 内:上:横位 のヘラスリ後一部に工具ナテ 口: 内:ヨコナテ後ハケ目 口:ヨコナテ 外: 上:ハケ目後タキ 外:下:ハケ目	外面上位に黒斑 内面下位にコケ 外面口縁部・外面胴部中位～下位 にスス			
			土師器・ミ ニチュア土 器(壺)	口:3.3 高:5.7 最胴:5.7	内:にぶい橙色 外:褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ 口:端:ヨコナテ 外:上: ハケ目 外:下:手持ちヘラスリ	外面底部に黒斑			
			弥・壺	最胴:16.5	内:灰褐～暗赤褐色 外:にぶい橙～褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:下:ナテ 内:ハケ目 外:ハケ目	外面下位に黒斑			
			弥・脚付鉢	脚:(6.2)	内:浅黄褐色 外:灰白～灰黄褐色	やや粗 径3mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ 外:ナテ	手捏わ土器 外面体部～脚部に黒斑			
			土師器・高 杯	口:(11.0) 高:10.0 裾:8.4	内:にぶい橙～褐色 外:にぶい褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長 石、雲母等を少し含む	良	杯:内:ナテ 口:ヨコナテ 杯:外: ハケ目 脚:外:ハケ目後ナテ 脚: 端:ヨコナテ 脚:内:ナテ				

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量cm・ (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考
SC20	P4	16-10	土師器・脚部	裾:7.1	内:橙色 外:橙色	精緻 径1mm以下の石英、長石、雲母等をごくわずかに含む	良	脚・内ナテ	
		11	土師器・高杯	脚:16.4	内:橙色	粗 径4mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	杯・内ハケ目 脚・内・上ナテ	
		12	土師器・杯身	口:(13.4)	内:橙色 外:橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ヨコナテ後工具ナテ後ハケ目 口ヨコナテ 外・上ハケ目 外・下:手持ちヘラケスリ後ハケ目	
		13	10 弥・鉢	口:(8.1)	内:橙色 外:橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外・中ナテ後ハケ目 外・下:ヘラケスリ後ハケ目	外面下位に黒斑
		14	弥・鉢	口:(9.9) 高:4.5	内:にぶい橙色 外:にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内・下ハケ目 口ヨコナテ 外ナテ	外面口縁部に黒斑
		15	弥・鉢	口:(14.2)	内:にぶい橙色 外:橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:板状工具ナテ 口ヨコナテ 外ナテ	
SC21	P2	15-9	弥・壺	底:(6.8)	内:にぶい黄橙色 外:灰白色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内ハケ目 外ハケ目	胴部外面中位・底部に黒斑
		10	弥・短頸壺	口:(15.3) 底:7.9 高:15.4 最胴:18.8	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙色	粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内:工具ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目	後円部2か所に穿孔 底部に種子圧痕 外面底部に黒斑
	P1	11 9	弥・壺	口:7.7 底:7.0 高:14.6 最胴:14.7	内:灰黄褐色 外:にぶい黄橙～灰黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナテ・ナテ 口:打ち欠き 外:上:工具ナテ 外・下:ヘラケスリ後ナテ	外面下半～底部に黒斑
SK1	19-1	弥・壺		内:浅黄橙色 外:黄橙～黄褐色	石英、金雲母を多く含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目後ナテ		
	2	弥・壺	底:7.2	内:浅黄褐色 外:赤～浅黄褐色	石英、金雲母を含む	良	内ナテ 外ハケ目	丹塗土器	
SK2	上層	19-3	弥・壺		内:浅黄褐色 外:浅黄褐色	石英を含む	良	内ナテ 外ナテ	
		4	弥・壺		内:浅黄褐色 外:褐灰	3～4mm大の石英、長石、金雲母を含む	良	内ナテ 口ナテ 外ハケ目	
	10	5	弥・壺	口:(15.8) 底:(6.2) 高:14.9	内:浅黄褐色 外:褐灰～赤褐色	石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目	
		6	弥・支脚	裾:13.0	内:橙色 外:淡褐色	石英、金雲母を含む	良	内ナテ 外ナテ	
SK4	19-7	弥・壺	口:(30.0) 最胴:(50.1)	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色	非常に細かい 石英、金雲母を含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目		
		8	弥・壺	底:(12.4)	内:淡黄色 外:淡黄色	石英、金雲母を含む	良	内ナテ 外ハケ目	
	9	弥・壺	底:(9.2)	内:にぶい橙色 外:明赤褐色	石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナテ 外ハケ目		
		10	弥・壺	底:8.5	内:浅黄褐色 外:にぶい黄褐色	石英を含む	良	内ナテ 外ハケ目	
	11	弥・鉢	口:(12.6)	内:にぶい黄褐色 外:浅黄褐色	非常に細かい 石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナテ 口・外ナテ		
		12	弥・高杯		内:浅黄褐色 外:褐灰～黄褐色	石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナテ 外ナテ	
SK5	上層	20-1	弥・壺	口:(28.8)	内:灰黄褐色 外:にぶい橙色	石英、雲母を含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外・上ハケ目後ナテ 外・下ハケ目	
		2	弥・把手		灰白～浅黄褐色	石英、金雲母を含む	良	ナテ(指頭痕が多く残る)	
		3	弥・支脚	裾:8.0	内:浅黄褐色 外:浅黄褐色	石英、金雲母、角閃石を含む	良	内ナテ 外ナテ	
SK7	21-1	10	弥・蓋	口:30.5 高:10.6 つまみ:6.6	内:浅黄褐色～にぶい橙色 外:にぶい橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	つまみ:未調整・ナテ 外ハケ目 裾:端ヨコナテ 内ハケ目後ヨコナテ・ナテ	裾部内面～端部にスス
		2	弥・蓋	口:(36.1)	内:にぶい橙～にぶい褐色 外:にぶい褐～にぶい褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	外ハケ目 裾:端ヨコナテ 内ナテ後工具ナテ	
	10	3	弥・壺	口:26.2 底:11.1 高:24.7	内:にぶい黄褐色 外:灰白～にぶい黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナテ・工具ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目 底ナテ	外面底部に黒斑 口縁部にスス
		4	弥・壺	口:25.3 底:10.4 高:27.9	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナテ・工具ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目 底ナテ	底部裏面に種子圧痕多数 外面胴部にスス
	10	5	弥・壺	口:25.5 底:10.4 高:26.7	内:橙～にぶい褐色 外:にぶい橙～にぶい褐色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外ナテ・工具ナテ 底ナテ	底部裏面に種子圧痕多数 口縁部～外面にスス
		6	弥・壺	口:31.2 底:7.8 高:36.2	内:浅黄褐色～にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色～にぶい褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナテ・工具ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目 底ナテ	内面下半～底部にコゲ 外面胴部にスス
	10	7	弥・壺	口:29.8 底:7.5 高:36.0	内:橙～にぶい褐色 外:にぶい褐～にぶい褐色	やや粗 径4mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目 底ナテ	内面中位・底部にコゲ 外面胴部～底部にスス
		22-1	10	弥・壺	口:33.5 底:8.6 高:38.4	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色～にぶい褐色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナテ・工具ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目 底ナテ
	10	2	弥・壺	口:32.8 底:8.4 高:35.7	内:橙色 外:橙～にぶい褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内ナテ・工具ナテ 口ヨコナテ 外ハケ目 底ナテ	底部裏面に種子圧痕 内面下半に薄いコゲ 口縁部～外面・底部裏面にスス
		3	弥・広口壺	底:5.9 最胴:30.2	内:赤～淡褐色 外:浅黄褐色～赤褐色	石英、角閃石、金雲母を含む	良	内・胴～底ナテ 内・頸コ方向のシキ 外・頸コ方向のシキ 外・胴コ方向のシキ 底ナテ	丹塗土器 内面頸部～外面胴部下位まで赤色顔料
4		弥・広口壺	口:31.8 底:(8.0) 高:29.6 最胴:(25.7)	内:橙色 外:橙～にぶい黄褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内・胴ヨコナテ後工具ナテ 内・頸～口ヨコナテ 外・頸ハケ目後ヨコナテ 外・胴ヨコナテ・工具ナテ・ハケ目 底ナテ	底部裏面に種子圧痕	
10	5	弥・広口壺	口:22.7 底:7.9 高:23.9 最胴:25.4	内:浅黄褐色～褐色 外:浅黄褐色～にぶい褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内・胴・下ヨコナテ後ナテ 内・胴・上ヨコナテ後工具ナテ 内・頸ヨコナテ 口ヨコナテ 外・頸ヨコナテ 外・胴・下ハケ目		

出土遺構	挿入 番号	図版 番号	器種	法量cm・ (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考
SK7	22-6		弥・広口壺	底:9.1 最胴:20.8	内:にぶい橙色 外:にぶい橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内・胴・下ナテ 内・胴・上ヘラガキ 外・胴ヘラガキ 底:ナテ	丹塗土器
	23-1	10	弥・ミニチュア土器(壺)	口:(7.2) 底:4.3 高:4.8 最胴:7.0	内:橙～浅黄橙色 外:橙～浅黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:ナテ 口:ヨコナテ 外:ヨコナテ 後下位は工具ナテ 底:ナテ	外面に黒斑
	2	10	弥・短頸壺	口:12.3 底:6.6 高:10.7 最胴:10.7	内:にぶい黄褐色 外:浅黄褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:ナテ 口:ヨコナテ 外:ヘラガキ	丹塗土器
	3	10	弥・短頸壺	口:(15.1) 底:6.5 高:12.5 最胴:16.5	内:橙色 外:橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:ヨコナテ 後工具ナテ 内:上:ヨコナテ 口:ヨコナテ 外:ヘラガキ 底:ナテ	丹塗土器 内面上位～外面に赤色顔料
	4	11	弥・短頸壺	口:18.0 底:7.0 高:15.8 最胴:21.1	内:にぶい黄褐～にぶい黄褐色 外:淡橙～灰白色	粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内:下ナテ・工具ナテ 内:上:ヨコナテ 口:ヨコナテ	口唇部に穿孔2か所×2 外面下位～底部に黒斑
	5		弥・短頸壺	口:16.7 底:7.2 高:13.8 最胴:18.6	内:にぶい橙～橙色 外:浅黄褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:上ヘラガキ 口:ヨコナテ 外:ヘラガキ 底:ナテ	丹塗土器
	6	11	弥・短頸壺	口:(16.2) 底:7.2 高:15.8 最胴:(20.0)	内:橙色 外:浅黄褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:下:工具ナテ 後ナテ 内:上:ナテ 口:端ヘラガキ 外:ヘラガキ 底:ナテ	丹塗土器
	7	11	弥・鉢	口:15.6 底:5.8 高:8.3	内:にぶい橙色 外:にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:ナテ 口:ヨコナテ 外:ナテ 底:ナテ	調整が丁寧
	8		弥・支脚	底:6.9	内:にぶい橙色 外:浅黄橙～にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	内:ナテ 外:工具ナテ 後ナテ 底:ヨコナテ	器表にササ科植物遺痕あり
	9	11	弥・支脚	受:7.3 底:8.2 高:13.1	内:にぶい褐～にぶい橙色 外:にぶい橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	上端:ヨコナテ 内:ヨコナテ 外:ナテ 底:ヨコナテ	
	10		弥・支脚	受:(8.6) 底:8.8 高:13.5	内:にぶい黄褐色 外:橙～にぶい橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	上端:ヨコナテ 内:ナテ 外:ナテ 底:ヨコナテ	
	11	11	弥・器台	受:11.0 底:13.6 高:15.9	内:にぶい橙～浅黄褐色 外:にぶい橙～浅黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	上端:ヨコナテ 内:上:工具ナテ 外:ハケ目 後:ヨコナテ 底:ヨコナテ	
	12		弥・器台	受:10.9 底:13.5 高:15.4	内:にぶい黄褐～にぶい橙色 外:にぶい橙～浅黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	上端:ヨコナテ 内:工具ナテ 外:ハケ目 底:ヨコナテ	底部に黒斑 外面下位にスス
13	11	弥・器台	受:10.9 底:13.2 高:15.9	内:浅黄褐色 外:浅黄橙～にぶい黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	上端:ヨコナテ 内:上下:ヨコナテ 内:中:ヨコナテ 後:工具ナテ 外:ハケ目 底:ヨコナテ		
	24-1	11	弥・高杯	口:30.3 裾:17.0 高:23.5	杯・内:赤色 杯・外:赤色 脚・内:浅黄褐色 脚・外:赤色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	杯・内:下ナテ 杯・内:ミガキ 口:ナテ 杯・外:ナテ 脚・外:ミガキ 裾:ナテ 内:ナテ	丹塗土器 口縁部上面に7～8本セットの暗文を18か所 脚部に穿孔(未貫通)
	2		弥・高杯	口:26.4	明赤褐～褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	杯・内:ミガキ 口～杯・外:ヨコナテ 脚・外:ミガキ 内:ナテ	丹塗土器 口縁部上面に暗文8か所
	3		弥・高杯	口:25.5 裾:15.9	杯・内:にぶい橙～橙色 杯・外:橙色 脚・内:橙色 脚・外:褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	杯・内:ミガキ 口:ヨコナテ 脚・外:ミガキ 裾・内:ハケ目 内:ナテ	丹塗土器 口縁部上面の暗文は不明
	4		弥・高杯	口:26.9	橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少し含む	良	杯・内:ミガキ 口:ヨコナテ 杯・外:ミガキ	丹塗土器 口縁部上面に暗文9か所
SK8	20-4	10	弥・ミニチュア	口:7.3 底:4.0 高:5.7	内:橙～にぶい橙色 外:橙～にぶい黄褐色	粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等を多く含む	良	内:ヘラケスリ 口:ヨコナテ 外:ナテ	外面後円部に薄い黒斑 底部に種子圧痕
	5		弥・高杯	口:(26.4)	赤～赤褐色	密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少量含む	良	内:ヘラガキ 口:ヨコナテ 外:横位のヘラガキ 後継位のヘラガキ	丹塗土器 口唇部に暗文
	下層	6	弥・支脚	受:(10.8) 裾:10.1 高:13.0	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色	ほぼ密 径3mm以下の石英、長石、雲母等を少量含む	良	内:ナテ 受部:ヨコナテ 外:ナテ 裾部:ヨコナテ	内面受部・外面にスス
下層	7	弥・高杯	裾:17.9	赤橙～赤褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少量含む	良	外:ヘラガキ 裾部:ヨコナテ 内:工具ナテ 後ハケ目	丹塗土器	
SD3	26-3		弥・壺	口:(29.8)	内:橙～にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ・工具ナテ 口:ヨコナテ 外:ハケ目 底:ナテ	口縁部上面に施文 外面胴部に黒斑
	4		弥・広口壺	口:(37.1)	内:浅黄橙～褐色 外:浅黄褐色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長石、雲母等を少量含む	良	内:ヨコナテ 口:ヨコナテ 外:ハケ目	
SD5	26-1		土師器・壺		内:灰黄褐～にぶい褐色 外:にぶい褐色	やや粗 径4mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヘラケスリ 口:ヨコナテ 外:ハケ目	内面胴部に薄いコゲ 外面胴部にスス
	2		弥・壺		内:にぶい橙～にぶい黄褐色 外:にぶい橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ 口・内:ハケ目 口:ヨコナテ 外:ハケ目	
SD6	上層	27-1	弥・壺	口:(29.4) 底:8.6 高:33.3	内:にぶい橙～にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色	やや粗 径4mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ・工具ナテ 口～頸:ヨコナテ、一部その後ハケ目 外・上:ハケ目 底:ナテ	内面胴部中にコゲ 口縁部～外面上位にスス 底部裏面に種子圧痕
	上層	2	弥・壺	口:23.3 底:10.5 高:25.6	内:浅黄橙～にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ 後一部:工具ナテ 口:ヨコナテ 外:ハケ目 底:ナテ	口縁部上面に工具圧痕 内面口縁部・外面底部に黒斑 外面下半にスス 底部裏面に種子圧痕
	上層	3	弥・壺	口:(20.4)	内:橙色 外:橙～にぶい橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ 口～頸:ヨコナテ 外:ハケ目	

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量cm・ (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	
SD6	上層	27-4	11	弥・壺	口:8.7 底:5.4 高:9.8 最胴:11.4	内:灰黄～灰白色 外:浅黄橙～にぶい黄 橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:胴ナテ 内:頸ヨコナテ 後ナテ 口: ヨコナテ 外:頸～胴・上ハケ目 外: 下ヨコナテ 底:ナテ	外面胴～底部に黒斑
	上層	5	11	弥・短頸壺	口:(16.3) 底:7.6 高:15.1 最胴:18.9	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙～にぶい黄 橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:下:工具ナテ 内:中～上:ナテ 口: ヨコナテ 外:ハケ目 底:ナテ	外面下位～底部に黒斑 外面中位にス 底部裏面に種子圧痕
	上層	6	11	弥・短頸壺	口:(17.3) 底:(7.2) 高:18.7 最胴:(22.0)	内:にぶい黄橙色 外:浅黄橙色 赤色顔料:赤橙～橙色	やや粗 径7mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナテ 口～頸ヨコナテ 外:ハ ケ目 後:ハラガキ 底:ナテ	丹塗土器
	上層	7		弥・鉢	口:16.1	内:浅黄橙色 外:灰白色	やや粗 径3mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:上ヨコナテ 後ナテ 口:ヨコナテ 外: ハケ目	
	上層	8	11	弥・筒型器 台	受部:12.9	内:灰白～にぶい黄橙 色 外:にぶい橙～灰白色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 受～突帯ヨコナテ 外: ハケ目	
	上層	9		弥・支脚	底:(7.9)	内:橙色 外:橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ 底:ナテ 外:ナテ	外面下位にス 底部に種子圧痕
	上層	10	11	弥・器台	受:12.9 底:(14.3) 高:18.3	内:浅黄橙～にぶい黄 橙色 外:橙～浅黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ 後、上・下は工具ナテ 後: ハケ目 受:ヨコナテ 底:ヨコナテ	
	下層	28-1		弥・蓋	天井:6.5	内:にぶい黄橙色 外:にぶい黄橙～浅黄 橙色	やや粗 径6mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	天:ナテ 外:ハケ目 内:工具ナテ 後: ナテ	
	下層	2		弥・蓋	天井:5.8	内:浅黄橙色 外:にぶい黄橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ	外面天井部～体部に黒斑
	下層	3		弥・筒型器 台	鏝部:(25.8)	内:浅黄橙～橙色 外:橙～浅黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長 石、雲母等を少し含む	良	内:ヨコナテ 鏝上:ハラガキ 後: 暗文	丹塗土器 鏝上部に暗文
	下層	4	11	弥・ミニチュ ア鉢	口:9.0 底:3.6 高:4.0	内:にぶい黄橙色 外:にぶい橙～にぶい 黄橙色	ほぼ密 径2mm以下の石英、長 石、雲母等を少し含む	良	内:ヨコナテ 後:工具ナテ 口:ヨコナテ 外: ハケ目 底:ナテ	内面体部～外面体部・外面底部に 黒斑
	下層	5		弥・鉢	口:15.9	内:灰黄褐～にぶい黄 橙色 外:灰黄褐～にぶい黄 橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナテ・ナテ 口:ヨコナテ 外: ハケ目	内面～外面上位にス
	下層	6		弥・器台	受:(11.7) 裾:(13.6) 高:15.4	内:にぶい橙色 外:浅黄橙色	やや粗 径3mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目? 外:ハケ目	
		7	11	弥・壺	口:(30.8) 底:(8.8) 器高:37.2	内:にぶい黄橙～灰黄 色 外:にぶい黄橙～にぶ い黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナテ・ナテ 口:ヨコナテ 外: ハケ目 底:ナテ	内面中位にコケ 内面上位～中位に二次焼成に伴う 器表剥離 底部裏面に種子圧痕多数
		8		弥・蓋	天:6.7	内:にぶい黄橙～浅黄 橙色 外:浅黄橙色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	天:ナテ 外:ナテ 後:ハケ目 内: ナテ・ハケ目	天井部上面に種子圧痕
		9	11	弥・無頸壺	口:12.4 底:6.2 高:13.0 最胴:16.8	内:橙～にぶい黄褐色 外:橙～にぶい褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:工具ナテ・ナテ 口:内:ハケ目 口: 端～頸・外ヨコナテ 外:ハケ目 後: ナテ	外面下位～底部に黒斑 底部裏面に種子圧痕
		10	11	弥・器台	受部:11.6	内:にぶい橙～にぶい 黄褐色 外:にぶい黄橙～にぶ い褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ヨコナテ 後:一部工具ナテ 受: ヨコナテ 外:ハケ目	
SX-1		26-5		弥・壺		内:浅黄橙色 外:浅黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ハケ目 口:ヨコナテ 外: ハケ目	
		6		土師器・壺		内:浅黄褐色 外:浅黄褐色	粗 径2mm以下の石英、長石、 雲母等を多く含む	良	内:ナテ 口:ヨコナテ 外: ハケ目	
SX-2		26-7		弥・小型丸 底壺	口:(11.9)	内:にぶい黄褐色 外:にぶい黄褐色	やや粗 径2mm以下の石英、長 石、雲母等をやや多く含む	良	内:ナテ 口:内:ハケ目 後: ヨコナテ 口・外: ヨコナテ 外:手持ちハラガキ 後: ハケ目	外面口縁～胴部に黒斑
		8		弥・器台	裾:13.8	内:にぶい黄褐色 外:浅黄褐色	粗 径4mm以下の石英、長石、 雲母等を多く含む	良	内:ヨコナテ・ナテ 外:ナテ 後: ハケ目 裾: ヨコナテ	

表2 横隈上ノ原上遺跡5 出土石器観察表

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	石材	長さcm (残存値)	幅 cm (残存値)	厚さ cm (残存値)	重さ g	備考	
SC17		29-1	12	石庖丁	輝緑凝灰岩	13.1	5.1	0.6	73	外孔径:0.7mm 内孔径:0.5mm
SD3		2	12	石庖丁	頁岩質砂岩	(8.6)	(5.8)	0.7	62	外孔径:1.5mm 内孔径:0.7mm
SC6		3	12	石庖丁 (再加工品)	緑色泥岩	(10.4)	(3.5)	0.8	26.4	外孔径:0.8mm 内孔径:0.5mm
SC11		4	12	石庖丁	頁岩質砂岩	(7.0)	(4.3)	0.6	27	外孔径:0.7mm 内孔径:0.4mm
SC14		5	12	石庖丁	凝灰岩	(4.6)	(3.5)	0.6	16	外孔径:1.2mm 内孔径:0.7mm
SK7		6	12	磨石	安山岩	12.8	10.6	8.9	1,245	
SK1		7	12	台石	安山岩	(12.5)	(7.1)	(3.7)	590	
SK1		8	12	磨石	花崗岩	11.4	7.5	3.4	450	
SC20	P2	9		磨石	安山岩	(7.5)	(6.2)	2.0	135	
SC17	床面	30-1	12	砥石	頁岩質砂岩	(11.1)	(4.0)	1.0	83	3面使用
SC11		2	12	砥石	細粒砂岩	(6.7)	3.3	1.7	57	4面使用
SC18		3	12	砥石	砂岩	(5.4)	(3.7)	1.9	46	5面使用
SC14	床下	4	12	砥石	砂岩	(5.3)	2.7	(1.8)	35	3面使用
SC4	P1	5	12	砥石	赤色砂岩	(4.1)	(3.5)	3.5	102.5	3面使用
SC8		6	12	砥石	泥岩	(11.3)	(4.2)	3.9	120	2面使用
SC21	P1	7	12	砥石	砂岩	(4.8)	(4.6)	1.5	28.6	4面使用
SC20		31-1	13	台石	砂岩	(26.5)	(14.5)	5.3	3,080	敲打面と砥面がある
SC23	P1	2	13	砥石	頁岩	(20.2)	(10.5)	(4.9)	1,428	鉄製品用か 3面使用
SC20		3	13	台石	花崗岩	15.6	8.0	5.2	1,450	
SC5		4	13	砥石	砂岩	11.3	6.7	4.8	475	4面使用
SC7	上層	5	13	砥石	泥岩	(10.1)	6.3	5.0	605	5面使用
SC21		6	13	砥石	細粒砂岩	(8.6)	(8.6)	(5.4)	551	4面使用

表3 横隈上ノ原上遺跡5 出土縄文土器・土製品観察表

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	法量cm・g (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整	備考
SC3		32-1	縄文土器 鉢		内:灰黄褐色 外:にぶい黄褐色	1mm以下の角閃石・雲母を わずかに含む	良	内:ナテ 外:押型文	
		2	縄文土器 鉢		内:にぶい黄褐色 外:橙色	1mm大の雲母を多く含む	やや 良	内:ナテ 外:押型文	
SC17		3	土製投弾	長:4.0 幅:2.3 重:15.4	橙色	精良	良	ナテ	
SD6	上層	4	土製投弾	長:3.5 幅:2.4 重:12.8	橙色	精良	良	ナテ・指頭圧痕	
SK7		5	不明土製品	長:3.4 幅:1.0 重:3.1	にぶい赤褐色	精良	良	ナテ	穿孔

表4 横隈上ノ原上遺跡5 出土鉄製品観察表

出土遺構	挿図 番号	図版 番号	器種	長さcm (残存値)	幅 cm (残存値)	厚さ cm (残存値)	備考	
SC13		33-1	13	鑿状鉄製品	(11.6)	1.4	1.1	
SC13		2	13	ヤリガンナ	(4.8)	1.3	0.3	
SC4		3	13	鉄鏃	4.6	3.5	0.7	
SC13		4	13	刀子	(8.1)	(1.3)	0.4	



①調査区遠景（北東から）



②調査区遠景（北から）



①調査区北部全景（上空から）



②調査区南部全景（上空から）



① 1号住居跡貼床面（北西から）



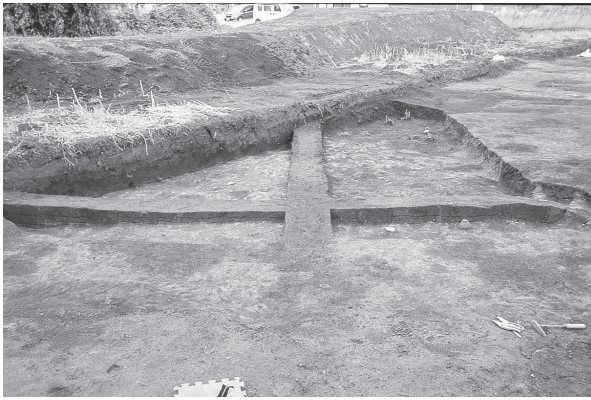
⑤ 2号住居跡完掘（西から）



② 1号住居跡完掘（西から）



⑥ 2号住居跡土層断面（南から）



③ 1号住居跡土層断面（東から）



⑦ 3号住居跡貼床面（南西から）



④ 2号住居跡貼床面（北東から）



⑧ 3号住居跡完掘（南西から）

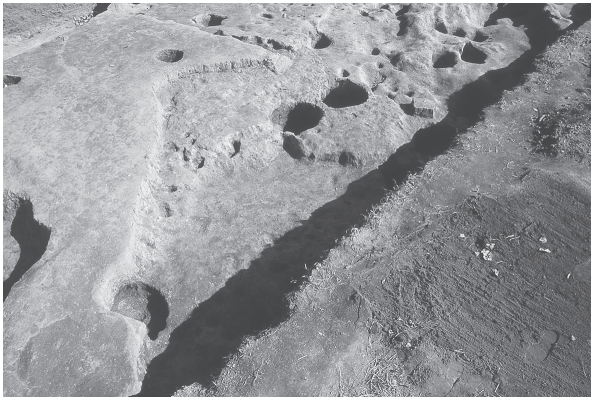
図版 4



① 4号住居跡貼床面 (南西から)



⑤ 6・7号住居跡貼床面 (西から)



② 4号住居跡完掘 (南西から)



⑥ 6号住居跡完掘 (北から)



③ 5号住居跡貼床面 (西から)



⑦ 7号住居跡完掘 (北西から)



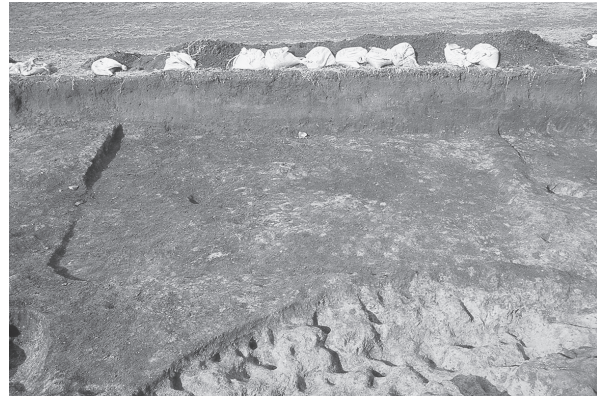
④ 5号住居跡完掘 (西から)



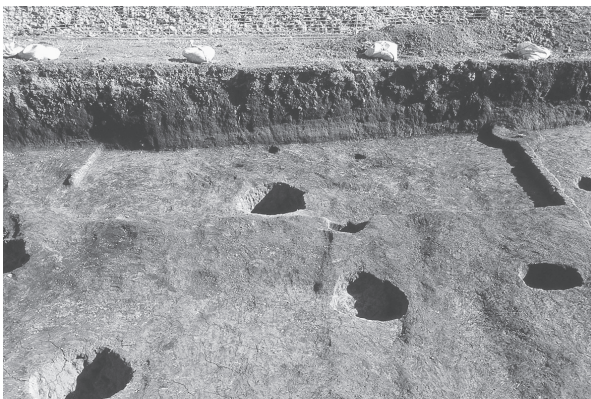
⑧ 8号住居跡完掘 (北東から)



① 9・10号住居跡貼床面（西から）



⑤ 17号住居跡貼床面（東から）



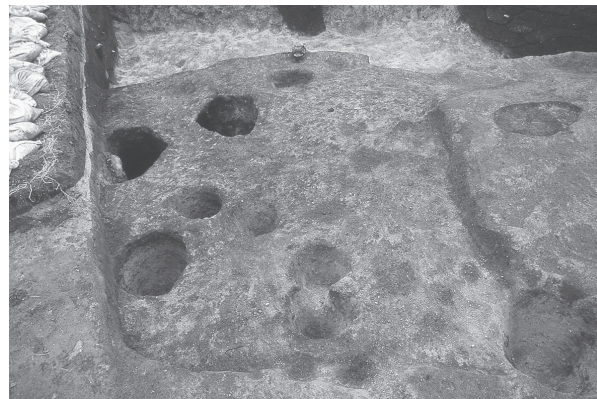
② 11号住居跡貼床面（西から）



⑥ 19・20号住居跡貼床面（南から）



③ 12～15号住居跡貼床面（南から）



⑦ 21号住居跡貼床面（北西から）



④ 16号住居跡貼床面（南から）



⑧ 21号住居跡完掘（西から）

図版 6



① 22号住居跡完掘（東から）



⑤ 5号土坑土層断面（南から）



② 2号土坑完掘（南東から）



⑥ 7号土坑遺物出土状況（北から）



③ 3号土坑土層断面（南から）



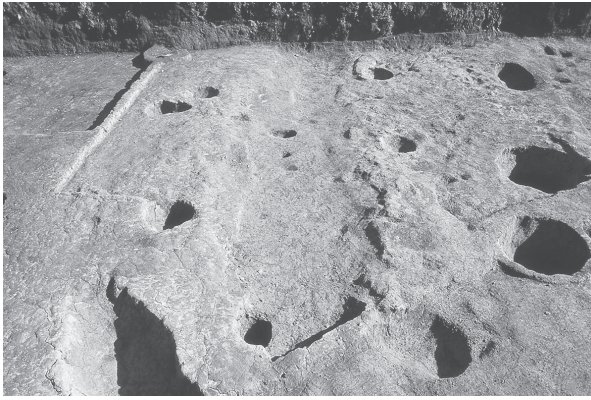
⑦ 1号溝状遺構完掘（北から）



④ 4号土坑完掘（南西から）



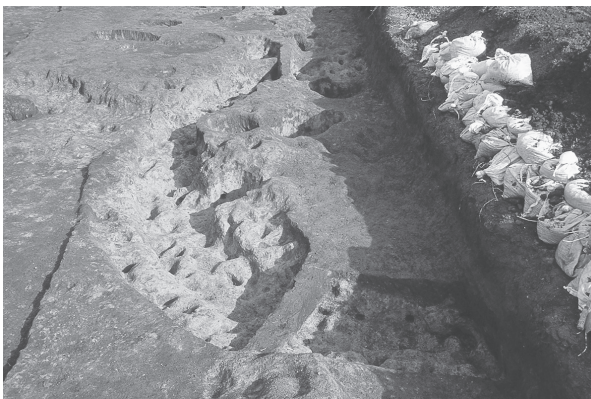
⑧ 3号溝状遺構完掘（西から）



① 4号溝状遺構完掘（西から）



⑤ 6号溝状遺構東壁土層断面（西から）



② 5号溝状遺構完掘（西から）



⑥ 1号不明遺構完掘（東から）



③ 6号溝状遺構完掘（北西から）



⑦ 2号不明遺構完掘（北から）



④ 6号溝状遺構西壁土層断面（東から）

图版 8

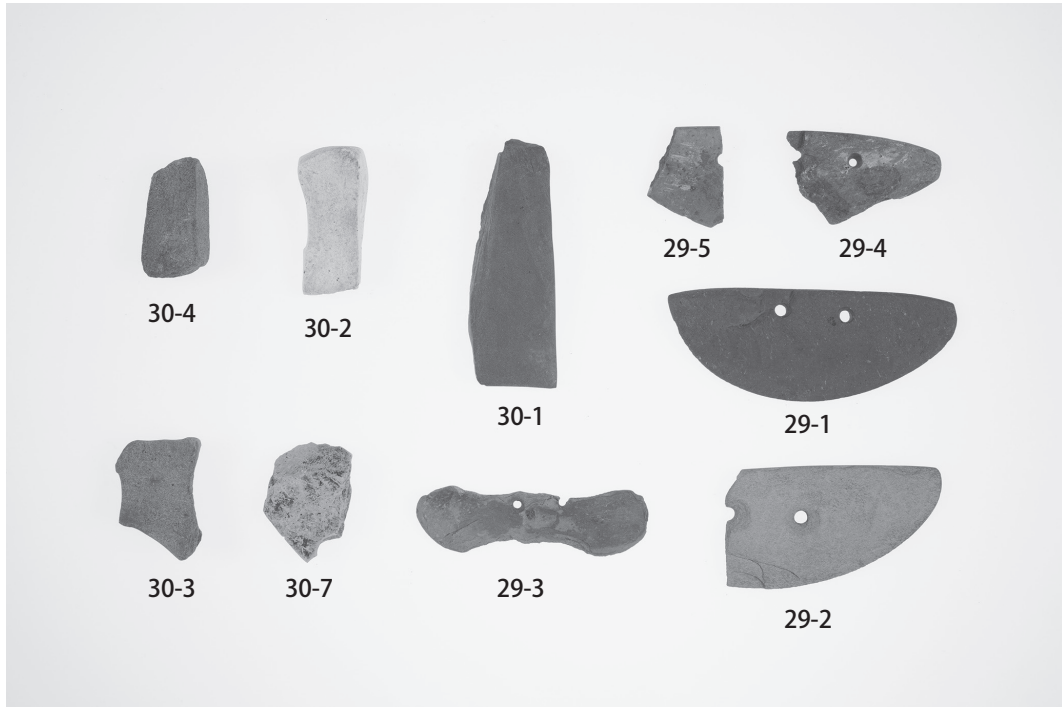




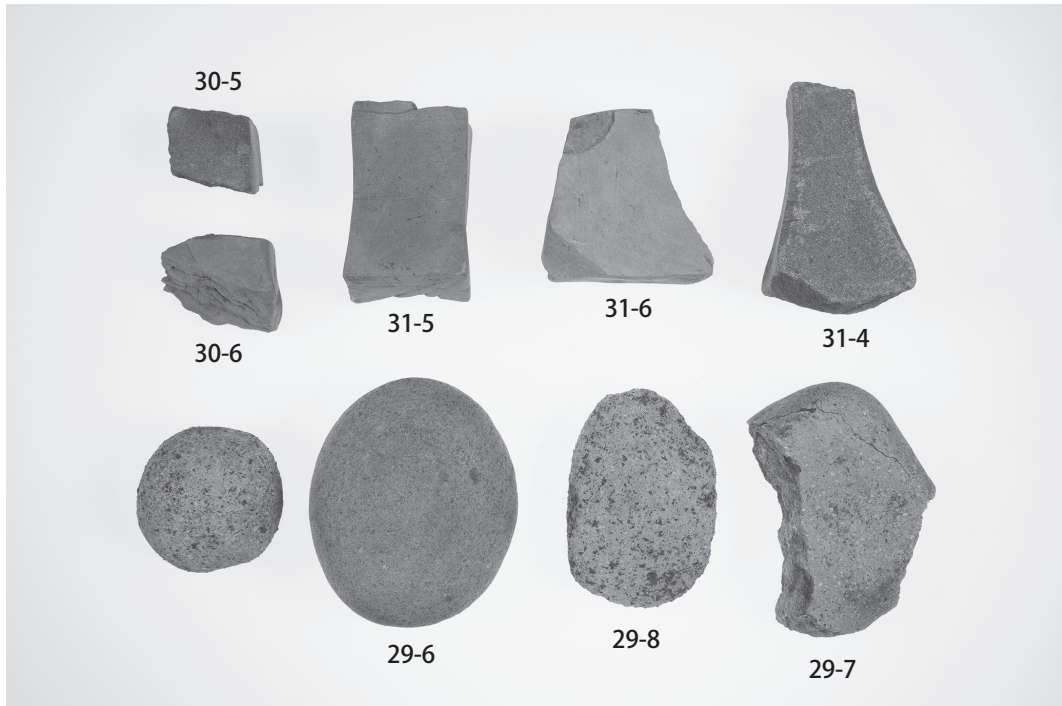
图版 10







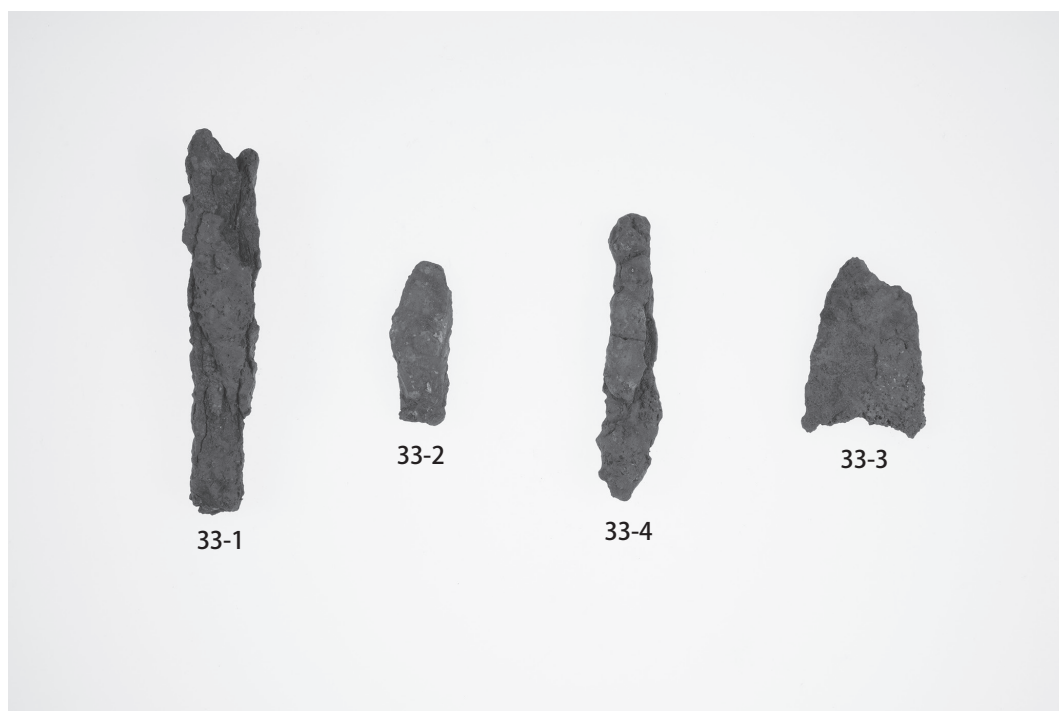
出土石器①



出土石器②



出土石器③



出土鉄製品

報告書抄録

ふりがな	よこぐまうえのはらうえいせき 5							
書名	横隈上ノ原上遺跡 5							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 346 集							
編著者名	一木賢人							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838-0198 福岡県小郡市小郡 255-1 ☎0942-72-2111							
発刊年月日	2022 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
よこぐまうえのはらうえいせき 横隈上ノ原上遺跡5	福岡県 小郡市 横隈	市町村	遺跡番号	33° 43' 17"	130° 57' 02"	2020. 9. 1 ～ 2021. 1. 29	666. 73 m ²	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
横隈上ノ原上 遺跡 5	集落	弥生時代 古墳時代		住居跡 24 軒 土坑 7 基 溝状遺構 6 条 不明遺構 2 基 ピット群		弥生土器 土師器 石器 土製品 鉄製品		
要約	<p>当遺跡は、小郡市北部に広がる三国丘陵の東端に位置し、標高は 20m 前後を測る。遺跡は弥生時代中期から古墳時代前期初頭にかけての集落で、多くの住居跡が著しく切り合う状況で確認された。調査区南端で検出した大型の溝状遺構は、弥生時代中期末を中心とした時期の遺構で、当遺跡から東側にある 3 次調査区でも確認されている。これを結ぶと長さは 75m 以上となり、遺構の分布状況を考慮すると、当該時期の集落の南限を示す区画溝である可能性が指摘できる。</p>							

横隈上ノ原上遺跡 5

小郡市文化財調査報告書

第 346 集

2022 年 3 月 31 日

発行 小郡市教育委員会

福岡県小郡市小郡 255-1

印刷 片山印刷 (有)

福岡県小郡市祇園 1-8-15